

4 . 環境保全行動の実態と今後の実施意向（問4）

環境基本計画では、多様な社会経済活動の中において、各主体が環境保全に関して担うべき公平な役割分担の下で、自主的積極的な行動への参加が期待されている。

今日、国民の日常生活に起因する環境負担が増大する中であって、国民の生活様式を持続可能なものに転換していくことが必要であるが、特に、地球温暖化問題、廃棄物・リサイクル問題や、閉鎖性水域の富栄養化問題、交通公害問題、近隣騒音問題などのように個人の行動が直接に環境負荷の削減に結びつく分野においては、個人の行動による直接的な効果が期待されている。

本章は、まず、生活者の環境保全行動を「国民の取組」の視点で分類し、その実態と今後の意向を分析し（4-1）、調査内容に沿って、環境保全行動全体の実施状況と実施意向等を詳細に分析する（4-2～4-4）。

4 - 1 国民の取組としての環境保全行動

まず、「国民の取組」の領域と環境保全行動種類の対応を示す。

【図表 4-1】環境保全行動の実態（全体）

分類		項目
人間と環境と関わりについての理解		1. 訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている 2. 観光・余暇活動の際にはなるべく自然を破壊することのないように気をつけている 3. 余暇には、自然とふれあうように心がけている
日常生活に伴う環境への負担の低減	再生紙などの環境への負荷の少ない製品やサービスの選択	4. 再生紙などのリサイクル商品を購入している 5. 物・サービスを買うときには環境への影響を考慮してから選択している 6. 地球にやさしいエコマーク等のついた商品を購入することを心がけている 7. 買い物の際は、製品の成分表示をチェックして選んでいる 8. 買い物の際、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている 9. 使い捨て商品はなるべく買わないようにしている 10. 物は修理して長く使うようにしている
	不要不急の自家用乗用車使用の自粛、節電などによる省エネルギー	11. 日常生活で節電に気をつけている 12. 冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節減に心がけている 13. 省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している 注1) 運転する際には、不要なアイドリング、空ぶかし、急発進などをしないように気をつけている 14. 外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している
	洗剤の適正な使用などの生活廃水対策	15. 日常生活で節水に気をつけている 16. 洗剤使用の適正化に努めている
	ゴミの減量化、リサイクルのための分別収集への協力	17. 日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている 18. 新聞・雑誌は古紙回収に回している 19. ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている 20. ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している 21. 不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルに回している
環境保全活動への参加	地域のリサイクル活動、緑化活動や環境美化活動への参加などによる地域の環境保全	22. 地域のリサイクル活動に参加している 23. 地域の緑化活動に参加している 24. 地域の美化活動に参加している
	民間団体の活動参加や支援を通じ地域環境保全の取組に参加	注2) 民間団体の環境保全活動に参加したことがある 注3) 金銭や物品の寄付をしたことがある
国、地方公共団体が実施する環境保全施策に協力		25. 国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している
その他		26. 環境に対して良いと思うことを人に勧めたり広めたりしている 27. 企業の環境保全の取組を促進するような金融商品（エコファンド等）を利用している

注) 1. 問 4-5 の質問項目

2. 問 6-1 の質問項目

3. 問 6-2 の選択肢 4 の質問項目

次に、環境基本計画の中で、国民に期待される取組の分類ごとに結果をみると以下の通りである。

人間と環境とのかかわりについての理解

訪問地での環境配慮は定着しているが、「余暇には、自然とふれあうように心がけている」の実行率（4段階の回答のうち、「いつも行っている」「だいたい行っている」の合計）は36%にとどまっている。

日常生活に伴う環境への負荷の低減

実行率が高かったのは、

- ・「ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」(92%)
- ・「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」(89%)
- ・「新聞・雑誌は古紙回収に回している」(80%)

などである。また、実行率が50%前後のものとしては、

- ・「洗剤使用の適正化に努めている」(52%)
- ・「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」(49%)

などがある。一方、実行率が低かったのは、

- ・「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルに回している」(24%)
- ・「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している」(30%)
- ・「地球にやさしいエコマークなどのついた商品を購入することを心がけている」(31%)
- ・「買い物時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」(33%)
- ・「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」(32%)

などである。

環境保全活動への参加

地域リサイクル活動、緑化活動、美化活動への参加はいずれも実行率が1～2割と低い。このうち、美化活動への参加は前回よりも6ポイント増加している。「民間団体の環境保全活動に参加したことがある」、「金銭や物品の寄付をしたことがある」の実行率はともに22%を示している。

国、地方公共団体が実施する環境保全施策に協力
実行率は20%であった。

【図表 4-2】環境基本計画に掲げられた「国民の取組」に関する環境保全行動の実施状況

「国民の役割」による分類		環境保全行動の種類	実行率 (%)			
			原則として「いつも行っている」「だいたい行っている」の合計			
人間と環境とのかかわりについての理解		訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている	89.9	89.0	88.0	
		観光・余暇活動の際にはなるべく自然を破壊することのないように気をつけている	87.3	86.0	87.0	
		余暇には、自然とふれあうように心がけている	35.5	34.8	39.7	
		再生紙などのリサイクル商品を購入している	42.9	41.4	44.9	
		物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択している	29.9	31.3	32.5	
日常生活に伴う環境への負荷の低減	再生紙などの環境への負荷の少ない製品やサービスの選択	地球にやさしいエコマークなどのついた商品を購入することを心がけている	30.7	29.5	31.0	
		買い物時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	38.3	39.1	38.3	
		買い物時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている	32.5	31.7	30.1	
		使い捨て商品はなるべく買わないようにしている	37.6	38.1	37.4	
		物は修理して長く使うようにしている	57.8	57.5	60.8	
		不要不急の自家用乗用車使用の自粛、節電などによる省エネルギー	日常の生活で節電に気をつけている	69.3	69.2	66.2
			冷暖房の使用に関してエネルギーの節減に心がけている	71.6	69.4	66.6
			省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している	55.0	52.6	51.8
		洗剤の適正な使用などの生活排水対策	日常の生活で節水に気をつけている	62.3	61.7	62.0
	洗剤使用の適正化に努めている		52.1	54.3	50.9	
	ごみの減量化、リサイクルのための分別収集への協力		日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている	48.8	52.7	51.7
		新聞・雑誌は古紙回収に回している	80.3	78.4	78.4	
		ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	92.3	89.6	91.1	
		ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	89.0	86.2	86.6	
	環境保全への参加	地域のササガ活動、緑化活動や環境美化活動への参加などによる地球の環境保全	地域のリサイクル活動に参加している	18.7	15.8	17.4
地域の緑化活動に参加している			12.2	10.9	11.3	
地域の美化活動に参加している			23.6	18.2	22.3	
民間団体の活動参加や支援を通じて地球環境保全の取組に参加		民間団体の環境保全活動に参加したことがある(*1)	21.9			
		金銭や物品の寄付をしたことがある	21.6			
国、地方公共団体が実施する環境保全施策に協力	国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している	20.0	16.5	20.2		
その他	環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている	15.0	15.3	17.7		
	企業の環境保全の金融商品(エコファンド等)を利用している(*2)	6.9				

■ 平成15年度(今回) N=1,267
 ■ 平成14年度(前回) N=1,211
 □ 平成13年度(前々回) N=1,248

注) *1 は、前回の調査と設問が異なる
 *2 は、今回新たに追加した項目

4 - 2 環境保全行動全般

4-2-1 現在の実施状況

環境保全行動のうち、「個人」で対応できるものについては実行率が高い（ゴミ出しや資源物の分別排出等のルール化されたもの、節電・節水等の金銭的な負担に関わるもの）。また、民間団体の活動参加や支援を通じた活動は高まりつつあるが、「地域」や「国・自治体」主導での行動は実行率が低い。

ここではまず、環境保全行動全体を通じた実行率をみることにする。環境保全行動を「どの程度行っているか」という質問に対して、「いつも行っている」または「だいたい行っている」と回答した割合（実行率）が70%以上の項目は以下のとおりである。

A. 実行率70%以上の項目

- ・ 「ゴミは地域のルールにしたがってきちんと分別して出すようにしている」(92%)
- ・ 「訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている」(90%)
- ・ 「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」(89%)
- ・ 「観光・余暇活動の際にはなるべく自然を破壊することのないように気をつけている」(87%)
- ・ 「新聞・雑誌は古紙回収に回している」(80%)
- ・ 「冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節減に心がけている」(72%)

これらの6項目のうち4つはゴミに関するものであり、ゴミ出しのマナーや資源物の分別排出等は、国民の間で定着しているものと判断される。また、A以外のゴミに関する項目の実行率は以下のとおりである。この結果より、過半数の人は物を長く使ったりすることによりゴミを出さないようにしているが、使い捨て商品の使用や過剰包装の抑制については、まだ意識が浸透していないものと考えられる。

B. その他ゴミに関する項目

- ・ 「物は修理して長く使うようにしている」(58%)
- ・ 「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」(49%)
- ・ 「使い捨て商品はなるべく買わないようにしている」(38%)
- ・ 「買い物時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」(33%)

日常生活における節電・節水に関する項目の実行率は以下のとおりであり、過半数の人が節電・節水を心がけていることが示されている。なお、これらは5～7割の実行率となっており、Aに次いで多くの人が実行している項目群である。

C. 節電・節水に関する項目

- ・ 「冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節電に心がけている」(72%)
- ・ 「日常の生活で節電に気をつけている」(69%)
- ・ 「日常の生活で節水に気をつけている」(62%)
- ・ 「省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している」(55%)

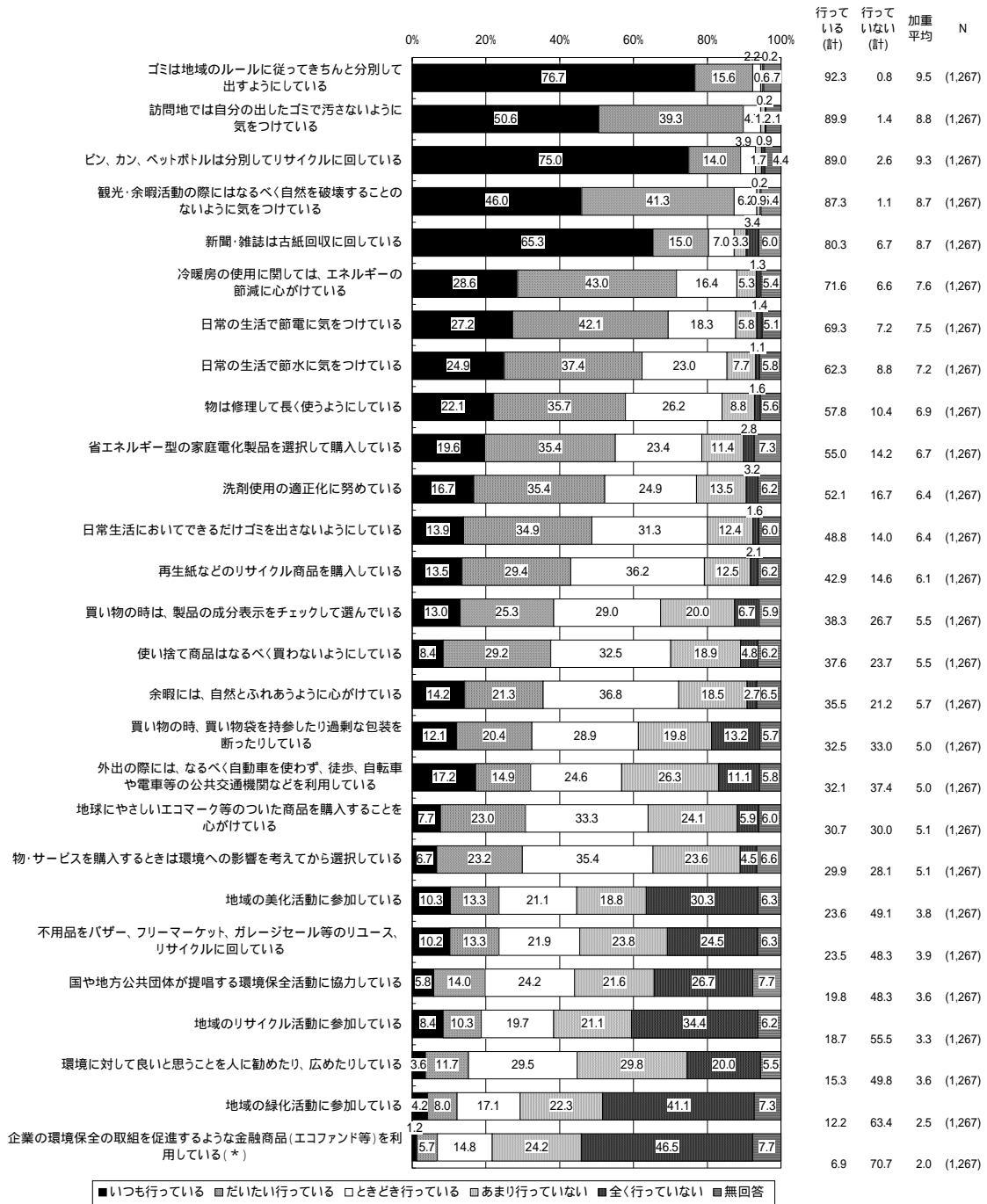
また、実行率が30%未満の項目は以下のとおりで、主に「地域」や「集団」など組織的な活動への参加による環境保全行動である。

D. 実行率が30%未満の項目

- ・ 「地域の美化活動に参加している」(24%)
- ・ 「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルに回している」(24%)
- ・ 「国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している」(20%)
- ・ 「地域のリサイクル活動に参加している」(19%)
- ・ 「環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている」(15%)
- ・ 「地域の緑化活動に参加している」(12%)
- ・ 「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド)を利用している」(7%)

以上の結果より、環境保全行動については、ゴミ出しや節電・節水等「個人」で対応できる行動の実行率は高いが、「地域」や「国・自治体」主導による行動は実行率が低いことが示される。しかし、「国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している」(20%)、「環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている」(15%)という民間団体の活動参加や支援を通じて地球環境保全に取り組もうという行動の実行率はかなり低い水準にある。なお、前回調査に比較して上昇した項目は「地域の美化活動に参加している」(18% 24%)であり、逆に低下した項目は、「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」(53% 49%)と「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」(36% 32%)である。

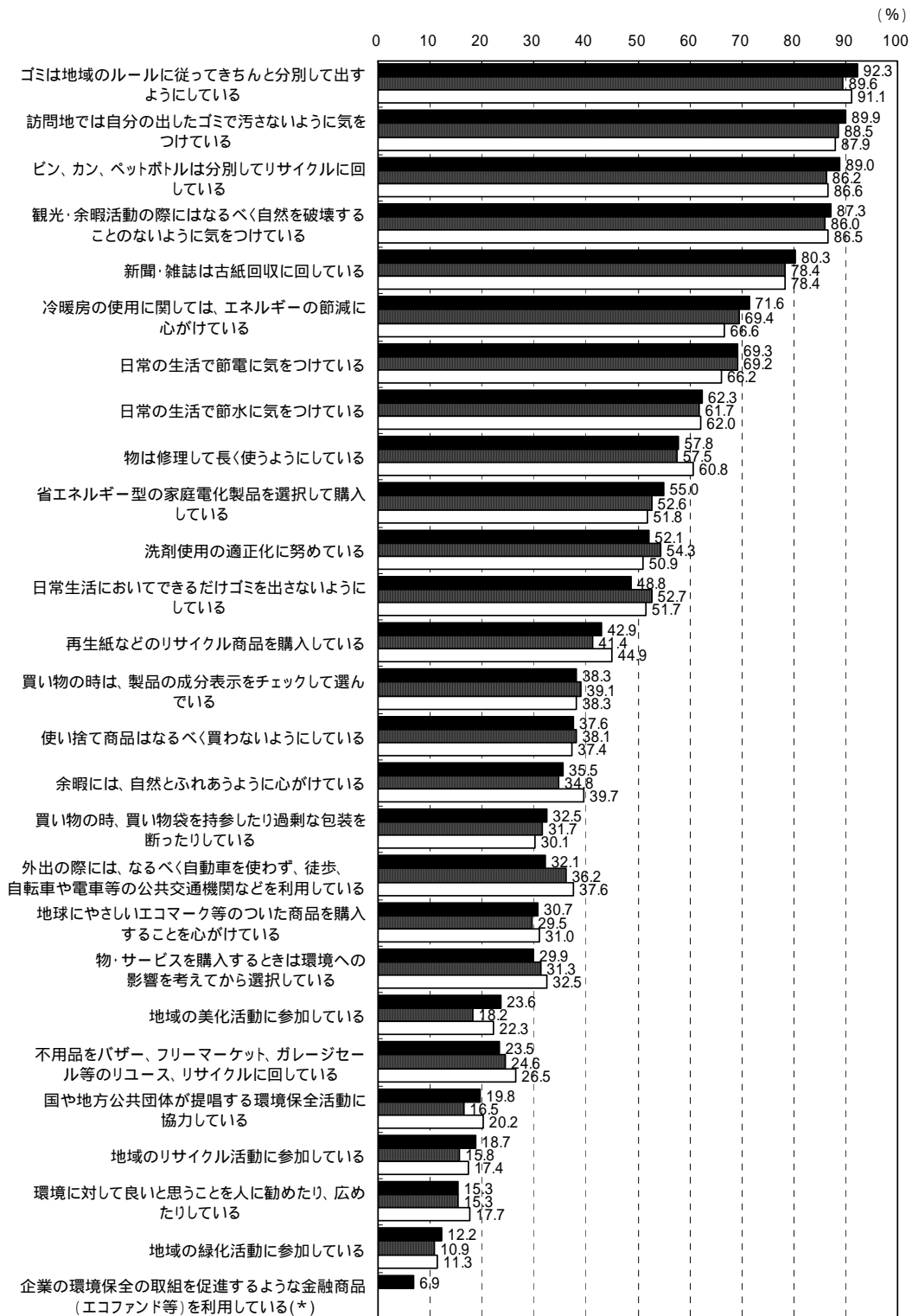
【図表 4-3】環境保全行動の実態（全体）



注) *印のものは、前回の調査と設問が異なる

この項の加重平均は、「いつも行っている」に10点、「だいたい行っている」に8点、「ときどき行っている」に5点、「あまり行っていない」に2点、「全く行っていない」に0点を与えて算出した。

【図表 4-4】環境保全行動の実態（全体、時系列）
 （「いつも行っている」「だいたい行っている」比率の合計）



■平成15年度(今回) N=1,267 ■平成14年度(前回) N=1,211 □平成13年度(前々回) N=1,248

注) *印のものは、前回の調査と設問が異なる
 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」については、前回の調査では「買い物袋の持参」「過剰包装」に分けて質問しており、比較不可。

環境保全行動の実行率について、性別にみると、男性の方が女性よりも実行率が5ポイント以上高い項目は存在しない。これに対し、女性の方が男性よりも実行率が10ポイント以上高い項目を以下に示す。環境保全行動は、女性の方が積極的に実行していることがうかがえる。

- 「省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している」
- 「洗剤使用の適正化に努めている」
- 「再生紙などのリサイクル商品を購入している」
- 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」
- 「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 「地球にやさしいエコマーク等のついた商品を購入することを心がけている」
- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している」

実行率が全体よりも10ポイント以上高い項目を年齢別にみた結果は次のとおり。

- | | |
|-------|--|
| 60代 | 「日常の生活で節水に気をつけている」
「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」
「余暇には、自然とふれあうように心がけている」 |
| 70代以上 | 「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関を利用している」
「地域の美化活動に参加している」
「国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している」
「環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている」
「地域の緑化活動に参加している」 |

実行率が全体よりも10ポイント以上高い項目を職業別にみた結果を以下に示す。

- | | |
|-----------|--|
| 自由業 | 「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」 |
| パート・アルバイト | 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」 |
| 専業主婦 | 「日常の生活で節電に気をつけている」
「省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している」
「洗剤使用の適正化に努めている」
「地球にやさしいエコマーク等のついた商品を購入することを心がけている」 |
| 学生 | 「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」 |
| その他 | 「使い捨て商品はなるべく買わないようにしている」 |

環境保全行動は、専業主婦が積極的に実行していることがうかがえる。また、自由業及び学生では、実行率が全体より10ポイント以上低いものが多い。

【図表 4-5】環境保全行動の実態（性別、年齢別、職業別）
 （「いつも行っている」「だいたい行っている」比率の合計）

単位：%

	性別			年齢別							職業別													
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工サービス	自由業	菅 会社役員・会社経	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他			
調査数(N)	1,267	586	652	118	177	212	287	288	163	68	89	29	36	280	60	32	26	134	239	198	0			
ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	92.3	90.9	94.0	89.8	95.5	97.2	96.8	92.0	78.5	82.4	95.5	89.6	94.4	94.6	96.7	96.9	84.6	96.3	94.2	87.4	92.9			
訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている	89.9	88.2	91.7	89.0	90.3	91.0	96.5	87.5	81.6	85.3	93.3	82.8	91.6	88.9	93.4	93.8	96.1	96.2	89.6	87.8	85.7			
ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	89.0	87.0	90.9	83.0	90.3	93.8	92.7	89.3	79.8	77.9	93.3	75.8	97.3	89.7	93.3	93.8	76.9	88.9	92.9	87.8	85.7			
観光・余暇活動の際にはなるべく自然を破壊することのないように気をつけている	87.3	87.0	88.0	91.5	90.4	92.5	92.0	84.0	73.6	78.0	89.9	86.2	88.8	87.2	93.3	96.9	96.1	91.0	88.7	83.8	85.8			
新聞・雑誌は古紙回収に回している	80.3	78.0	82.6	74.6	79.6	81.1	87.8	78.8	73.6	80.8	74.1	75.8	77.7	77.5	83.3	87.6	76.9	88.1	84.9	78.3	73.8			
冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節減に心がけている	71.6	68.6	74.4	62.7	74.0	72.7	70.4	76.4	68.1	69.1	71.9	65.5	58.4	69.0	70.0	62.5	76.9	70.2	80.4	71.7	71.4			
日常生活で節電に気をつけている	69.3	66.2	72.7	56.8	70.7	70.2	65.6	77.5	69.9	63.2	67.4	55.1	72.2	65.7	73.3	62.6	65.4	64.9	79.9	71.2	69.0			
日常生活で節水に気をつけている	62.3	57.4	66.9	50.9	56.0	59.0	61.0	73.7	64.4	63.3	65.1	55.2	52.8	53.9	55.0	46.9	53.8	61.9	72.0	69.7	64.3			
物は修理して長く使うようにしている	57.8	57.5	58.2	55.1	52.5	56.6	54.7	66.4	58.3	60.3	65.2	65.5	52.8	54.7	46.7	50.0	57.7	57.5	61.5	59.1	61.9			
省エネルギー型家庭電化製品を選択して購入している	55.0	49.1	60.3	44.0	55.9	54.2	56.4	59.7	51.5	55.9	56.1	31.0	63.9	49.0	55.0	59.4	57.7	56.0	66.9	50.0	50.0			
洗剤使用の適正化に努めている	52.1	44.2	58.6	41.5	45.2	49.5	51.2	60.7	54.6	45.6	49.5	31.0	41.7	44.3	50.0	40.6	42.3	56.0	62.8	59.6	42.9			
日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている	48.8	45.0	51.7	23.7	36.1	42.0	50.9	63.9	57.7	54.4	50.6	41.4	47.2	40.7	38.4	46.9	38.5	43.2	53.6	58.6	54.8			
再生紙などのリサイクル商品を購入している	42.9	36.9	48.2	27.9	41.2	44.8	46.7	45.5	41.7	42.6	43.8	31.0	50.0	36.4	46.7	46.9	30.8	47.7	51.1	38.4	52.4			
買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	38.3	30.5	45.1	36.5	32.2	31.2	40.1	43.4	43.6	38.2	34.8	27.6	36.1	30.3	38.4	37.5	38.5	50.0	41.0	39.9	47.6			
使い捨て商品はなるべく買わないようにしている	37.6	32.6	42.0	22.8	38.4	34.0	39.4	40.3	44.8	29.5	40.4	37.9	33.3	32.2	35.0	37.6	19.2	34.3	47.3	39.9	50.0			
余暇には、自然とふれあうように心がけている	35.5	36.2	34.8	28.8	27.1	27.4	37.6	45.8	37.4	39.7	43.8	37.9	44.4	27.9	31.7	34.4	23.1	27.6	40.6	41.0	35.7			
買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている	32.5	24.3	39.4	34.8	29.9	34.9	31.1	30.9	34.3	22.1	37.0	34.5	30.5	27.2	26.7	28.1	42.3	41.0	40.6	27.2	31.0			
外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している	32.1	26.5	36.8	29.6	27.7	26.0	27.8	37.8	42.3	10.3	31.5	44.8	19.5	28.2	18.4	21.9	42.3	34.4	37.2	41.9	30.9			
地球にやさしいエコマーク等のついた商品を購入することを心がけている	30.7	23.2	36.6	13.6	24.8	32.1	32.7	34.0	36.8	39.7	26.9	31.0	25.0	23.2	30.0	28.1	19.2	26.9	41.0	31.3	38.0			
物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している	29.9	24.4	35.0	17.0	26.0	22.2	34.5	34.7	37.4	33.8	34.9	24.1	27.7	25.4	26.7	31.3	19.2	23.1	35.5	33.3	38.1			
地域の美化活動に参加している	23.6	23.5	23.0	7.6	17.0	20.3	26.5	25.0	36.8	30.9	24.7	10.3	25.0	19.7	18.3	18.7	3.8	23.8	23.0	31.8	21.4			
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルに回している	23.5	18.6	27.8	22.0	26.6	26.4	20.9	20.8	25.7	23.5	23.6	31.0	19.4	16.8	21.7	21.9	23.1	23.2	30.5	25.3	21.4			
国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している	19.8	20.4	18.4	2.5	8.4	16.0	22.6	26.4	30.1	29.4	14.6	13.7	13.9	18.9	18.3	15.7	-	14.9	19.7	26.8	21.5			
地域のリサイクル活動に参加している	18.7	16.2	20.5	5.1	15.8	19.8	17.1	20.5	27.6	26.5	22.5	13.8	11.1	13.9	16.7	12.5	3.8	14.2	22.2	23.2	21.5			
環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている	15.3	14.4	15.5	8.5	9.6	8.5	18.1	16.6	25.8	25.0	13.5	20.7	19.4	14.3	6.7	12.5	7.7	11.9	15.1	18.2	14.3			
地域の緑化活動に参加している	12.2	11.4	12.0	3.4	5.7	8.5	11.5	14.6	23.9	17.7	16.9	6.8	13.9	10.0	3.3	6.2	-	9.7	11.7	18.2	4.8			
企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している(*)	6.9	5.8	7.2	2.5	3.4	2.4	9.8	9.3	8.6	13.3	4.5	6.9	8.3	5.4	3.4	9.4	-	3.0	8.8	8.1	7.2			

注) *印のものは、前回の調査と設問が異なる

環境保全行動の実行率について、地域別にみると、概して、北海道・東北、関東、東海及び中国・四国は全体より実行率が高い項目が多く、北陸、近畿、九州は全体より実行率が低い項目が多い。全体より実行率が5ポイント以上高い項目を地域的にみると以下の通りである。

- | | |
|--------|--|
| 北海道・東北 | 「余暇には、自然とふれあうように心がけている」
「環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている」
「地域の緑化活動に参加している」 |
| 関東 | 「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」 |
| 北陸 | 「訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている」 |
| 東海 | 「新聞・雑誌は古紙回収に回している」
「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」
「地域のリサイクル活動に参加している」 |
| 近畿 | 「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」 |
| 中国・四国 | 「冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節減に心がけている」
「日常の生活で節電に気をつけている」
「省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している」
「再生紙などのリサイクル商品を購入している」 |
| 九州 | 「地域の美化活動に参加している」 |

都市規模別にみると、都市規模が大きいほど実行率が高い項目は、

「日常の生活で節水に気をつけている」

「外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」

などである。一方、都市規模が小さいほど実行率が高い項目は、

「地域の美化活動に参加している」

「国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している」

「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している」

などである。都市と地方のライフスタイルの差が環境保全行動の内容にも表れている。

【図表 4-6】環境保全行動の実態（地域別、都市規模別）
 （「いつも行っている」「だいたい行っている」比率の合計）

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,267	165	397	48	194	176	129	142	264	466	249	272
ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	92.3	88.5	95.2	95.8	92.8	93.8	89.9	88.0	94.0	94.4	94.4	85.7
訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている	89.9	89.7	88.5	95.9	91.3	92.6	89.9	86.6	89.8	92.3	90.0	85.7
ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	89.0	85.4	90.5	93.8	91.3	88.1	87.6	85.9	88.3	92.5	91.1	81.2
観光・余暇活動の際にはなるべく自然を破壊することのないように気をつけている	87.3	87.3	88.2	91.6	87.7	88.0	84.5	85.2	88.7	90.7	88.0	79.8
新聞・雑誌は古紙回収に回している	80.3	78.8	83.4	81.3	88.1	81.3	76.0	65.5	77.3	85.8	84.0	70.6
冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節減に心がけている	71.6	72.1	73.8	70.9	67.0	71.0	79.1	66.2	73.1	72.3	73.5	67.7
日常生活で節電に気をつけている	69.3	67.9	70.8	62.5	71.7	64.8	76.7	64.7	70.1	71.2	71.9	62.8
日常生活で節水に気をつけている	62.3	62.4	63.4	60.4	62.3	61.9	66.7	57.0	65.6	65.6	63.1	53.3
物は修理して長く使うようにしている	57.8	62.4	57.9	52.1	54.2	58.6	59.7	54.9	56.8	57.5	59.4	57.0
省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している	55.0	47.9	55.4	50.0	56.1	55.1	62.0	55.6	54.5	56.5	57.8	50.4
洗剤使用の適正化に努めている	52.1	47.9	52.6	50.0	54.6	54.6	55.0	45.8	53.0	54.5	52.6	46.0
日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている	48.8	50.9	49.8	45.9	56.7	43.8	44.2	43.0	47.0	50.3	52.3	44.4
再生紙などのリサイクル商品を購入している	42.9	44.8	40.3	41.7	46.4	42.0	51.2	38.0	38.6	45.5	47.0	39.3
買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	38.3	41.2	39.3	22.9	39.6	35.8	38.0	38.1	37.1	41.2	39.7	32.8
使い捨て商品はなるべく買わないようにしている	37.6	40.6	37.6	37.5	41.8	36.4	37.2	29.5	34.9	39.9	40.5	33.1
余暇には、自然とふれあうように心がけている	35.5	43.0	34.5	33.4	36.1	34.7	36.5	31.6	30.3	38.4	39.0	33.5
買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている	32.5	32.2	35.0	29.2	33.0	33.0	36.5	21.8	32.6	36.7	37.0	20.9
外出の際には、なるべく自動車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している	32.1	29.1	41.0	31.3	28.3	37.5	21.7	20.5	50.4	34.6	29.3	13.7
地球にやさしいエコマーク等のついた商品を購入することを心がけている	30.7	34.0	29.9	16.7	35.1	30.7	34.2	24.7	30.0	31.8	32.5	28.0
物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している	29.9	33.3	29.5	29.2	33.0	27.3	31.8	25.3	26.5	32.8	31.3	27.2
地域の美化活動に参加している	23.6	26.1	21.4	10.4	25.2	19.3	26.4	30.3	11.4	24.9	26.9	29.4
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルに回している	23.5	23.6	26.9	27.1	23.7	22.2	25.6	14.1	20.5	28.2	24.9	18.4
国や地方公共団体が提唱する環境保全活動に協力している	19.8	20.6	17.4	18.8	24.7	17.6	21.0	21.2	12.1	19.4	22.9	25.4
地域のリサイクル活動に参加している	18.7	20.0	16.6	20.8	25.3	14.3	20.9	17.0	14.7	18.1	24.5	18.4
環境に対して良いと思うことを人に勧めたり、広めたりしている	15.3	21.2	13.6	10.4	13.4	13.1	17.9	18.3	9.9	15.7	19.7	16.1
地域の緑化活動に参加している	12.2	17.6	10.4	4.2	14.4	9.7	17.0	9.9	7.2	13.3	14.8	12.9
企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している(*)	6.9	7.3	6.0	4.2	7.2	8.0	8.6	7.0	5.7	6.2	7.2	9.2

4-2-2 将来の実施意向

現在環境保全行動を行っていない人は、将来において実施の意向を示した人が多い。しかし、意向率はほとんどの項目で前回の調査を下回っている。
また、「個人」で対応できる項目の意向率は高いが、「地域」や「集団」での対応が必要な項目の意向率は低い。

現在行っていない（「あまり行っていない」又は「全く行っていない」）環境保全行動について、将来の実施の意向を尋ねたところ、過半数の人が「今後はもっと行いたいと思う」と回答した項目は全 27 項目中 15 項目にのぼった。

このうち、「今後はもっと行いたいと思う」と回答した比率（「意向率」）が 60%以上と高い項目は以下のとおりである。

意向率 60%以上の項目

- ・ 「日常生活で節水に気をつけている」(64%)
- ・ 「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」(61%)

また、上記に続く意向率 50%台の項目は以下のとおりである。

意向率 50%台の項目

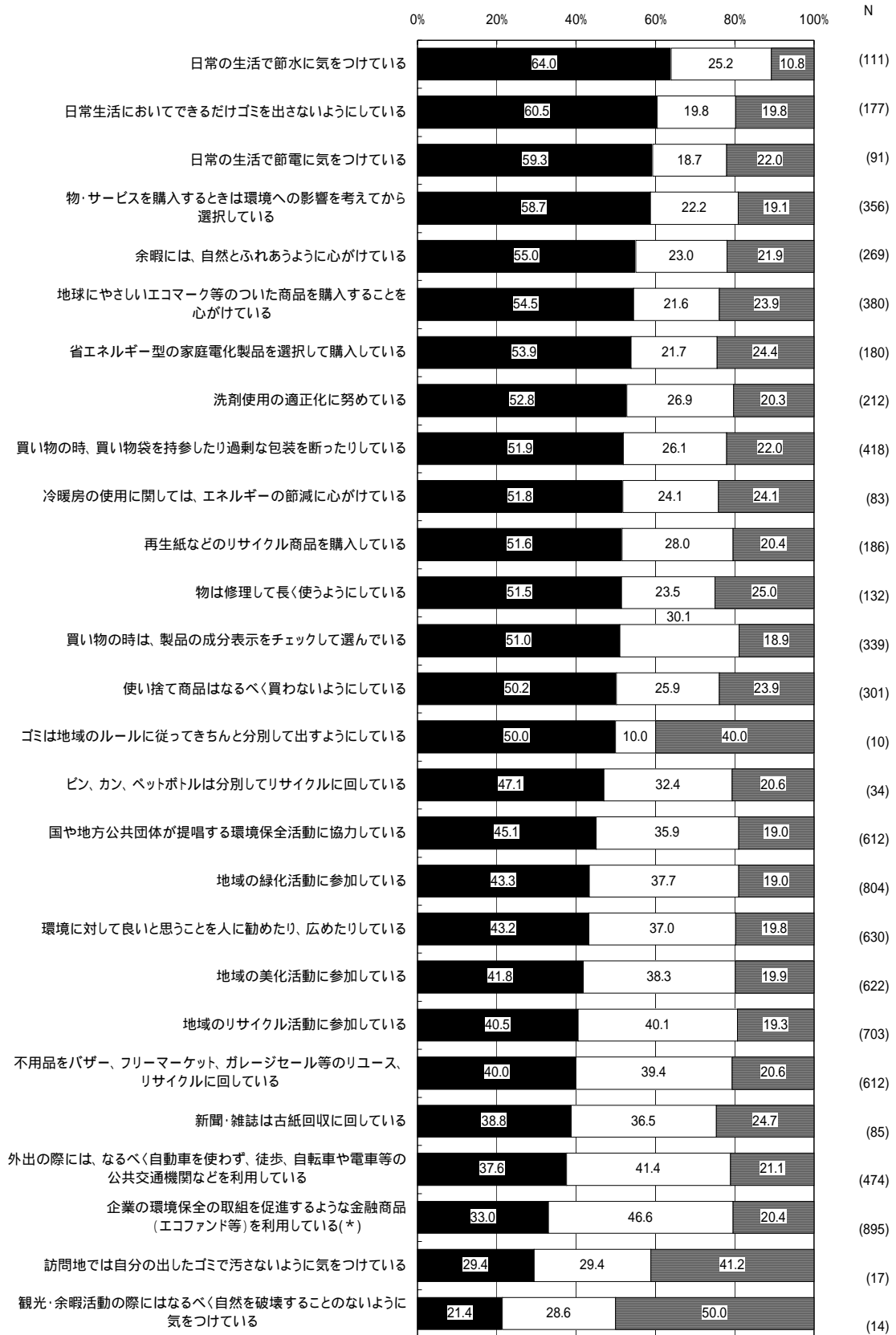
- ・ 「日常生活で節電に気をつけている」(59%)
- ・ 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している」(59%)
- ・ 「余暇には、自然とふれあうように心がけている」(55%)
- ・ 「地球にやさしいエコマーク等のついた商品を購入することを心がけている」(55%)
- ・ 「省エネルギー型の家庭電化製品を選択して購入している」(54%)
- ・ 「洗剤使用の適正化に努めている」(53%)
- ・ 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」(52%)
- ・ 「冷暖房の使用に関しては、エネルギーの節減に心がけている」(52%)
- ・ 「再生紙などのリサイクル商品を購入している」(52%)
- ・ 「物は修理して長く使うようにしている」(52%)
- ・ 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」(51%)
- ・ 「使い捨て商品はなるべく買わないようにしている」(50%)
- ・ 「ゴミは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」(50%)

前回の調査と比較すると、ほとんどの項目の意向率が低下しており、前回よりも意向率が 5 ポイント以上上昇した項目は「日常生活で節水に気をつけている」の 1 項目に限られる。また、意向率の低下が顕著な項目は以下のとおりである。

意向率の低下が顕著な項目

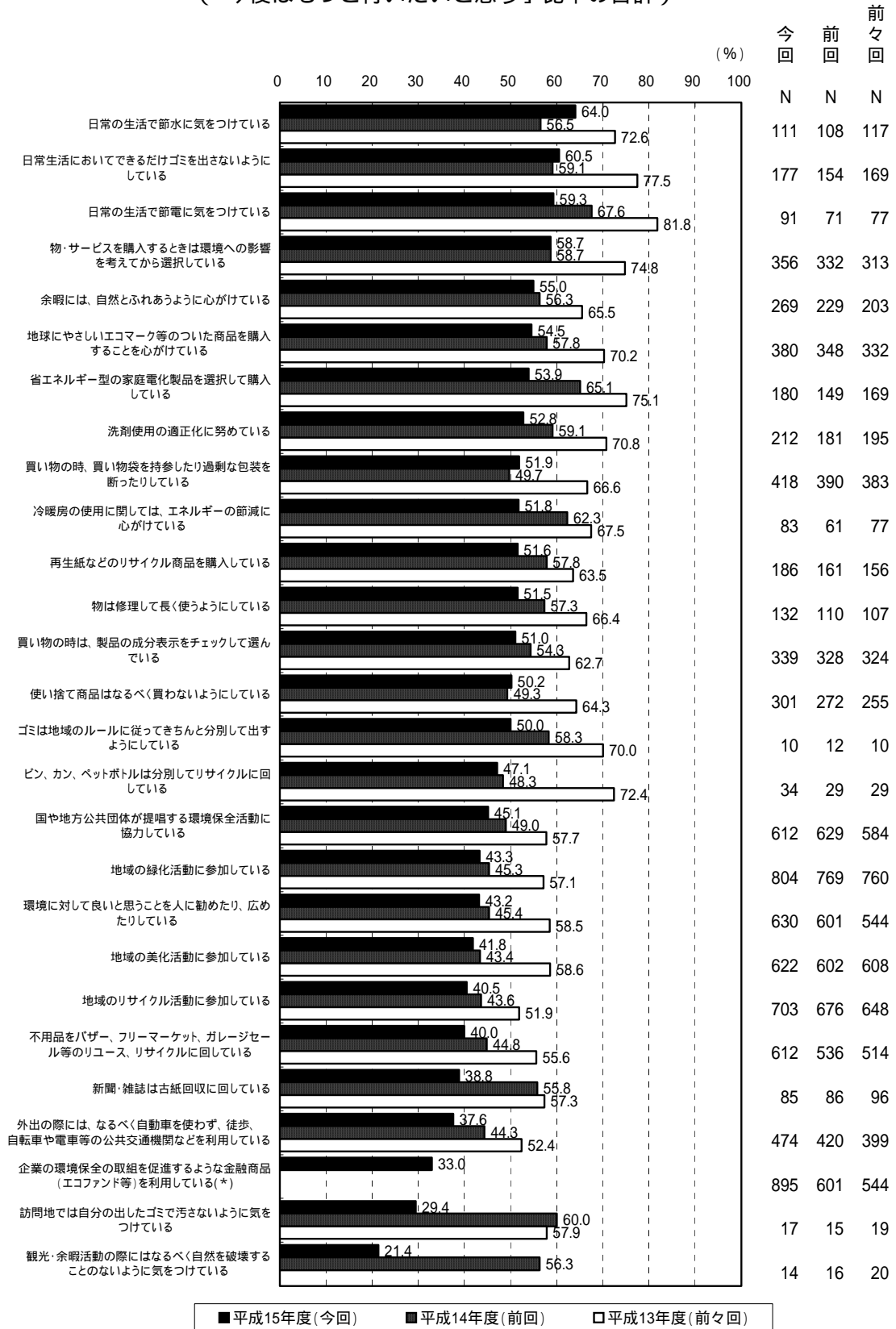
- ・ 「新聞・雑誌は古紙回収に回している」(56% 39% : 17 ポイント減)
- ・ 「訪問地では自分の出したゴミで汚さないように気をつけている」(60% 29% : 31 ポイント減)
- ・ 「観光・余暇活動の際にはなるべく自然を破壊することのないように気をつけている」(56% 21% : 35 ポイント減)

【図表 4-7】環境保全行動の今後の意向（全体）



■ 今後をもっと行いたいと思う □ 今後あまり行わない ■ 無回答

【図表 4-8】環境保全行動の今後の意向（全体、時系列）
 （「今後はもっと行いたいと思う」比率の合計）



4 - 3 自然とのふれあいについて

4-3-1 自然とのふれあいについてのニーズ

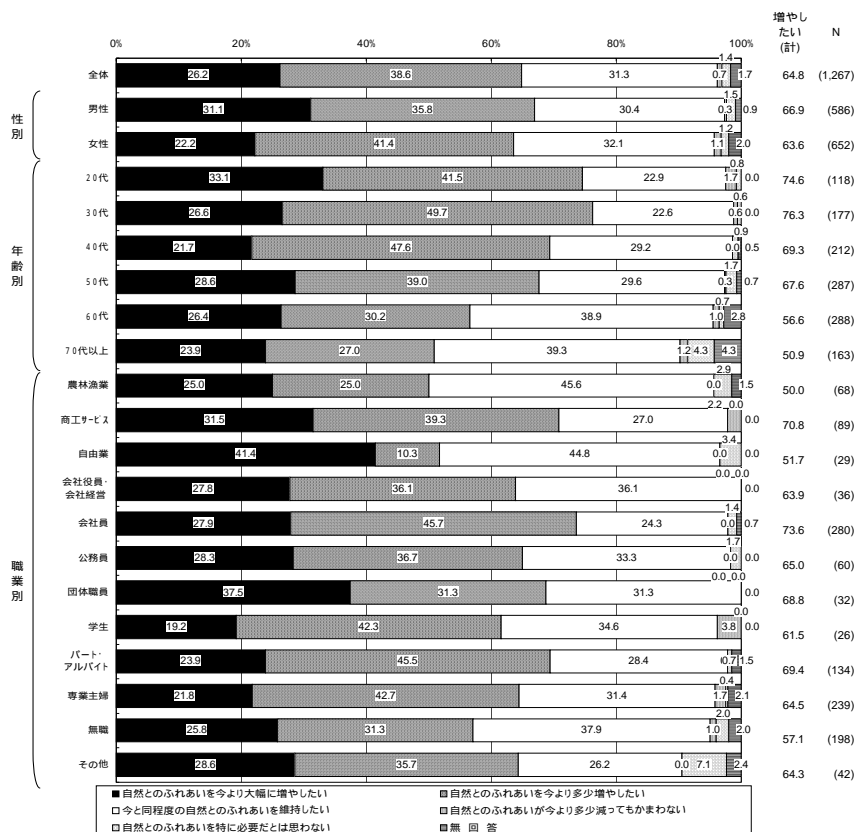
自然とのふれあいについてのニーズはきわめて強く、「今より増やしたい」という意向は「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」と「自然とのふれあいを今より多少増やしたい」を合わせて65%にのぼる。年代別には20代・30代、職業別では商工サービス、会社員、パート・アルバイトのニーズが強い。

自然とのふれあいを「今より増やしたい」という人は「自然とのふれあいを大幅に増やしたい」(26%)と「自然とのふれあいを多少増やしたい」(39%)を合わせて65%にのぼる。また、31%は「今と同程度の自然とのふれあいを維持したい」としており、大多数の人が自然のふれあいを求めているといえる。

性別による差は小さいが、年齢別にみると20代・30代でよりふれあいたいというニーズが強く、「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」「自然とのふれあいを多少増やしたい」の合計が75%、76%にのぼっている。一方、60代・70代ではニーズが弱く、それぞれ57%、51%にとどまっている。

職業別では、商工サービス、会社員のニーズが強く、「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」「自然とのふれあいを今より多少増やしたい」とする率はそれぞれ71%、74%となっている。農林漁業、自由業、無職についてはニーズが弱く、50%、52%、57%となっている。

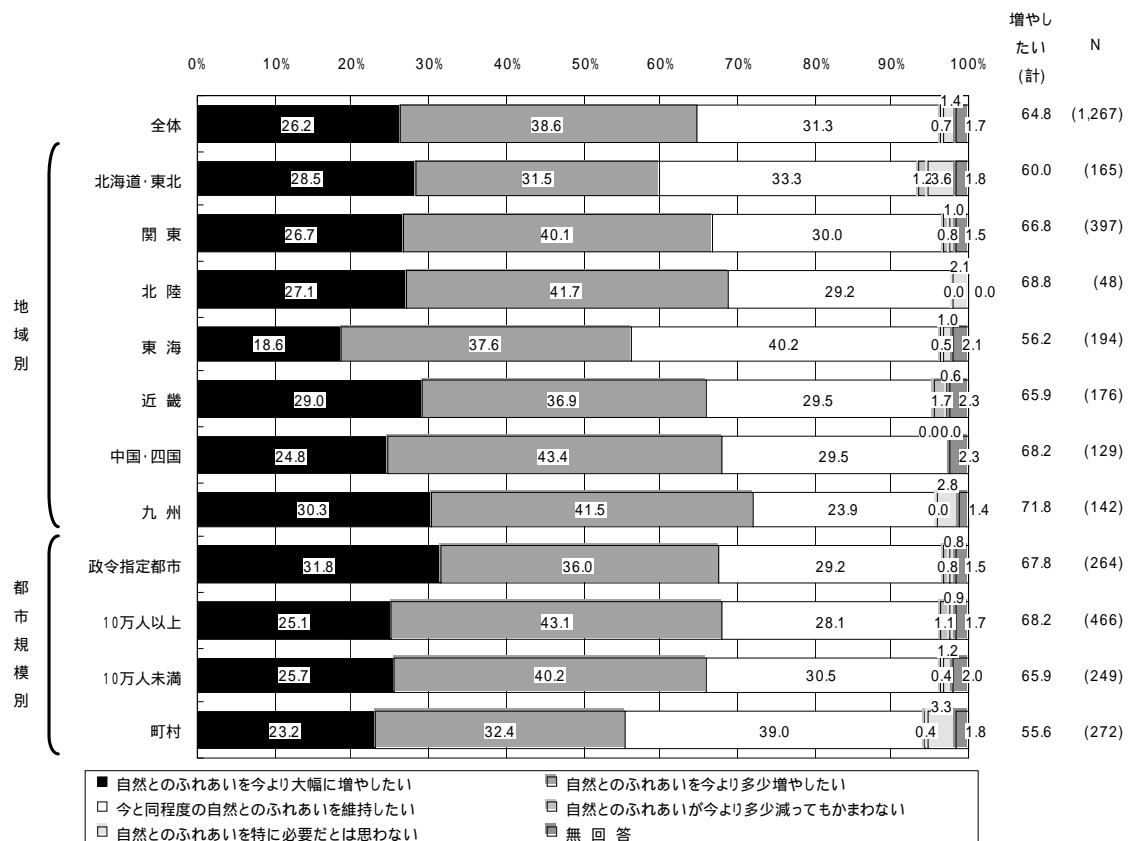
【図表 4-9】自然とのふれあいについてのニーズ（性別、年齢別、職業別）



地域別では、北陸、中国・四国、九州でニーズがやや強く、「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」「自然とのふれあいを今より多少増やしたい」とする率は68～72%となっている。一方、東海ではニーズが弱く、56%にとどまる。

また、都市規模別では、都市規模が大きくなるほどニーズが強いという傾向がみられる。

【図表 4-10】自然とのふれあいについてのニーズ（地域別、都市規模別）



4-3-2 自然とふれあって過ごしている日数

自然とふれあって過ごしている日数は「年に10～39日」が全体の40%を占めているが、農林漁業や町村では「年に100日以上」が最も多い。

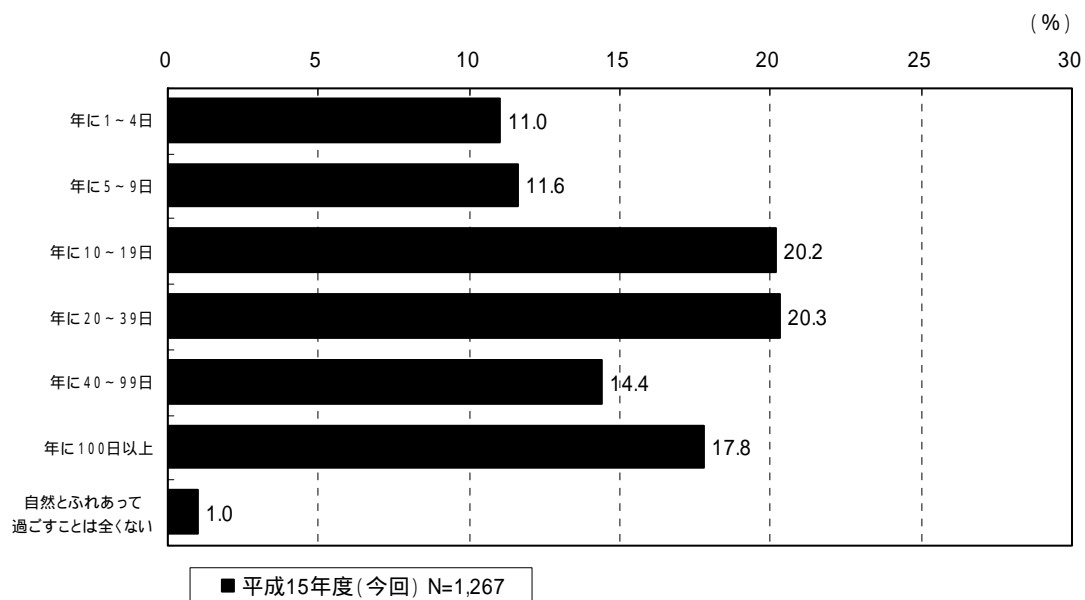
自然とふれあって過ごしている日数は「年に10～19日」「年に20～39日」(各20%)が比較的多く、両者の合計で全体の40%を占めている。

女性は男性に比べて「年に1～4日」(13%)、「年に100日以上」(21%)がやや多く、日数の二極化が見られる。

年齢別では、30代から50代にかけては「年に10～19日」が最も多く22%から25%となっている。20代と60代は「年に20～39日」が最も多く、それぞれ26%となっている。70代以上は「年に100日以上」が最も多く26%となっている。

また、職業別では、商工サービス、会社役員・会社経営、会社員、公務員、団体職員、学生、パート・アルバイトは「年に10～19日」「年に20～39日」が多く、これらをあわせて40%以上となっている。また、農林漁業やその他は、自然とふれあって過ごす日数が多く、「年に100日以上」がそれぞれ52%、26%となっている。一方、商工サービス、自由業、会社員は、自然とふれあって過ごす日数が少なく、年に9日以下が25%以上を占めている。

【図表 4-11】自然とふれあって過ごしている日数(全体)



【図表 4-12】自然とふれあって過ごしている日数（性別・年齢別・職業別）

単位：%

	性別			年齢別							職業別										
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,267	586	652	118	177	212	287	288	163	68	89	29	36	280	60	32	26	134	239	198	42
年に1～4日	11.0	8.5	12.7	12.7	6.8	12.3	13.9	8.7	10.4	7.4	15.7	13.8	5.6	10.4	5.0	12.5	15.4	10.4	11.3	12.6	7.1
年に5～9日	11.6	13.7	10.1	9.3	11.3	12.7	12.9	9.4	15.3	7.4	13.5	24.1	11.1	14.6	11.7	9.4	7.7	6.7	12.1	10.1	14.3
年に10～19日	20.2	20.3	20.2	19.5	25.4	24.5	22.0	14.9	15.3	7.4	27.0	13.8	25.0	22.9	26.7	21.9	19.2	23.1	18.0	17.2	16.7
年に20～39日	20.3	22.9	18.3	26.3	19.8	17.9	19.5	25.7	11.7	10.3	19.1	24.1	25.0	23.6	23.3	18.8	26.9	23.1	18.4	17.2	19.0
年に40～99日	14.4	17.1	12.4	12.7	15.8	11.3	15.3	16.3	14.7	13.2	13.5	13.8	13.9	14.3	13.3	15.6	11.5	15.7	14.6	17.7	11.9
年に100日以上	17.8	13.8	20.7	15.3	18.6	16.0	13.2	18.8	25.8	51.5	7.9	10.3	13.9	10.0	20.0	21.9	11.5	15.7	20.1	19.2	26.2
自然とふれあって過ごすことは全くない	1.0	1.4	0.6	-	-	1.9	1.0	1.7	-	-	2.2	-	-	2.5	-	-	-	0.7	0.4	0.5	-
無回答	3.7	2.4	4.9	4.2	2.3	3.3	2.1	4.5	6.7	2.9	1.1	-	5.6	1.8	-	-	7.7	4.5	5.0	5.6	4.8
平均(日)	39.3	37.4	40.7	37.2	41.0	35.1	34.8	42.6	46.1	67.5	28.4	31.1	37.5	32.1	41.0	42.4	33.8	39.2	41.5	42.4	45.9

地域別にみると、関東、北陸、東海、近畿は「年に10～19日」「年に20～39日」が多く、どの地域もあわせて40%以上となっている。また、北海道、中国・四国、九州では自然とふれあう日数が多く、年に40日以上がそれぞれ43%、39%、37%となっている。

都市規模別では町村で「年に100日以上」が35%と特に多く、都市規模が多くなればなるほど自然とふれあう日数が減少する傾向がうかがえる。

【図表 4-13】自然とふれあって過ごしている日数（地域別・都市規模別）

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,267	165	397	48	194	176	129	142	264	466	249	272
年に1～4日	11.0	10.3	14.1	4.2	11.3	9.7	7.8	10.6	15.5	11.8	10.0	6.6
年に5～9日	11.6	10.9	14.1	20.8	6.7	8.0	10.9	12.7	15.2	10.3	12.9	8.5
年に10～19日	20.2	13.3	20.9	22.9	22.7	25.0	20.9	14.8	23.5	22.7	20.5	12.1
年に20～39日	20.3	18.8	21.4	18.8	21.1	22.7	17.8	17.6	20.5	22.7	22.1	14.3
年に40～99日	14.4	20.6	10.1	20.8	17.5	16.5	11.6	14.1	12.5	13.9	15.7	16.5
年に100日以上	17.8	22.4	14.9	10.4	14.9	14.8	27.1	22.5	9.1	14.6	14.5	34.9
自然とふれあって過ごすことは全くない	1.0	-	1.3	-	1.5	0.6	0.8	1.4	0.8	0.9	2.0	0.4
無回答	3.7	3.6	3.3	2.1	4.1	2.8	3.1	6.3	3.0	3.0	2.4	6.6
平均(日)	39.3	46.9	33.7	36.0	39.0	38.4	45.9	43.6	29.6	36.4	36.9	56.9

4-3-3 自然とのふれあいを増やすために必要なこと

自然とのふれあいを増やすために必要なことについては、「身近に整備された自然とふれあうための場所」「自然環境の保全・育成」「自然に関する情報の提供」が5割前後で上位を占める。

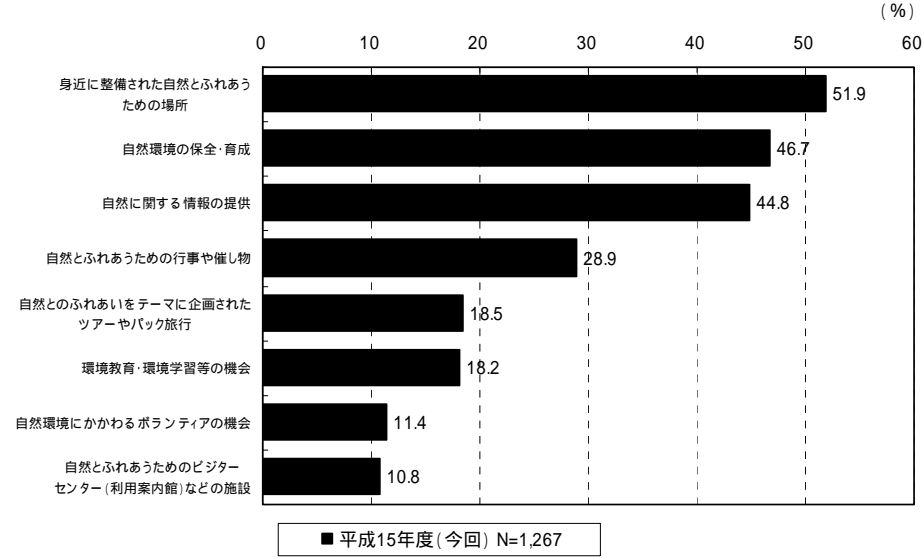
自然とのふれあいを増やすために必要なこととしては、「身近に整備された自然とふれあうための場所」(52%)、「自然環境の保全・育成」(47%)、「自然に関する情報の提供」(45%)に対する指摘が5割前後と多い。これらと比べるとやや比率は低くなるが、「自然とふれあうための行事や催し物」に対する指摘も3割近くを占めている。

性別にみると、男性は女性より「身近に整備された自然とふれあうための場所」(54%)、「自然環境の保全・育成」(50%)、女性は男性より「自然に関する情報の提供」(47%)、「自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやパック旅行」(21%)がやや多い。

年齢別では、20代、30代で「自然環境の保全・育成」(55%、57%)、40代で「自然に関する情報の提供」(54%)、60代で「身近に整備された自然とふれあうための場所」(57%)の指摘が多い。高齢になるほど、「自然環境の保全・育成」や「自然に関する情報の提供」を指摘する割合が少なく、「自然とふれあうための行事や催し物」「自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやパック旅行」が多くなる傾向がうかがえる。

また、職業別では、自由業、無職で「身近に整備された自然とふれあうための場所」(57%、57%)、自由業、公務員、団体職員、学生で「自然環境の保全・育成」(62%、57%、56%、54%)、自由業、学生で「自然に関する情報の提供」(62%、69%)、農林漁業で「自然とふれあうための行事や催し物」(41%)、無職、その他で「自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやパック旅行」(25%、26%)、自由業、公務員で「環境教育・環境学習等の機会」(28%、23%)の指摘が多くみられる。

【図表 4-14】自然とのふれあいを増やすために必要なこと(全体)(複数回答)



【図表 4-15】自然とのふれあいを増やすために必要なこと(性別、年齢別、職業別)(複数回答)

単位: %

	性別			年齢別							職業別										
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,267	586	652	118	177	212	287	288	163	68	89	29	36	280	60	32	26	134	239	198	42
身近に整備された自然とふれあうための場所	51.9	54.4	49.4	47.5	52.5	49.5	50.5	57.3	50.9	35.3	52.8	58.6	50.0	55.4	46.7	53.1	34.6	55.2	51.9	57.1	42.9
自然環境の保全・育成	46.7	49.7	44.6	55.1	57.1	50.0	48.4	39.6	36.8	48.5	43.8	62.1	52.8	48.2	56.7	56.3	53.8	47.0	43.9	40.4	47.6
自然に関する情報の提供	44.8	43.2	46.8	51.7	50.8	53.8	46.7	40.3	27.6	26.5	46.1	62.1	41.7	47.5	48.3	43.8	69.2	47.8	49.0	37.4	38.1
自然とふれあうための行事や催し物	28.9	28.7	29.1	23.7	31.6	22.6	27.5	32.3	33.1	41.2	30.3	27.6	19.4	26.8	21.7	28.1	30.8	23.1	31.8	31.3	31.0
自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやバック旅行	18.5	14.8	21.3	16.9	12.4	12.7	19.9	22.2	22.7	17.6	14.6	10.3	11.1	14.3	10.0	18.8	23.1	22.4	18.8	25.3	26.2
環境教育・環境学習等の機会	18.2	17.4	19.2	17.8	20.9	16.5	18.1	19.4	16.0	17.6	15.7	27.6	16.7	17.5	23.3	9.4	19.2	16.4	21.8	17.2	14.3
自然環境にかかわるボランティアの機会	11.4	10.1	12.6	11.0	10.7	9.4	11.8	12.5	12.3	10.3	12.4	13.8	11.1	8.9	8.3	9.4	15.4	12.7	12.1	12.1	14.3
自然とふれあうためのビジターセンター(利用案内館)などの施設	10.8	11.4	10.3	5.9	11.3	10.8	11.1	14.2	7.4	8.8	5.6	10.3	13.9	10.7	6.7	12.5	7.7	14.9	12.6	11.1	7.1
無回答	3.3	2.2	4.3	2.5	0.6	2.8	2.8	3.5	8.0	5.9	1.1	3.4	-	2.1	3.3	3.1	7.7	3.0	3.3	4.5	-

地域別にみると、関東、九州で「身近に整備された自然とふれあうための場所」(58%、59%)、近畿で「自然に関する情報の提供」(50%)、北海道・東北で「自然とふれあうための行事や催し物」(41%)、中国・四国で「環境教育・環境学習の機会」「自然環境にかかわるボランティアの機会」(23%、18%)の指摘がそれぞれ多い。

また、都市規模別では、都市規模が大きくなるに従い「身近に整備された自然とふれあうための場所」「自然に関する情報の提供」の指摘が多くなる傾向がみられ、都市規模が小さくなるに従い「自然とふれあうための行事や催し物」の指摘が大きくなる傾向がみられる。

【図表 4-16】自然とのふれあいを増やすために必要なこと（地域別、都市規模別）

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,267	165	397	48	194	176	129	142	264	466	249	272
身近に整備された自然とふれあうための場所	51.9	47.3	57.9	41.7	49.5	48.3	45.7	58.5	60.2	51.7	51.0	45.6
自然環境の保全・育成	46.7	44.2	48.1	43.8	50.0	47.7	49.6	40.1	46.6	51.7	42.6	43.0
自然に関する情報の提供	44.8	38.8	47.1	37.5	41.8	50.0	46.5	43.7	51.5	45.5	48.2	33.8
自然とふれあうための行事や催し物	28.9	40.6	26.4	20.8	26.8	30.1	26.4	28.9	26.9	26.6	31.3	32.7
自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやパック旅行	18.5	13.3	18.6	20.8	22.2	19.9	20.2	16.2	17.8	19.7	20.9	15.4
環境教育・環境学習等の機会	18.2	21.8	18.1	14.6	17.5	12.5	23.3	19.7	14.0	19.5	20.5	18.4
自然環境にかかわるボランティアの機会	11.4	9.7	9.8	12.5	9.8	10.8	17.8	14.8	7.2	12.7	12.0	12.9
自然とふれあうためのビジターセンター(利用案内館)などの施設	10.8	9.7	13.4	8.3	10.8	9.1	8.5	8.5	13.3	10.1	13.7	6.3
無回答	3.3	3.0	2.3	2.1	3.6	3.4	3.1	4.9	1.5	2.8	4.4	4.0

4-3-4 過去1年間の自然関連の旅行経験

過去1年間の自然関連旅行経験率は64%。その内訳では、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が35%で最も多い。また、自然関連旅行経験率は60代、自由業（各69%）、団体職員（75%）、専業主婦（70%）で高い。

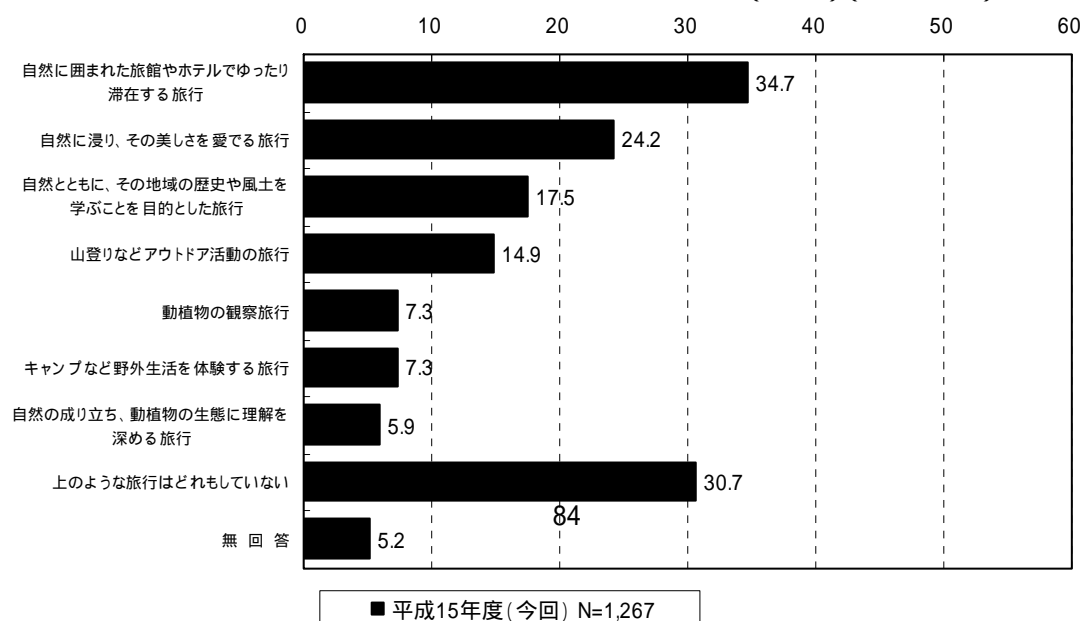
過去1年間の自然関連の旅行経験を聞いたところ、何らかの経験がある人（「図表 4-17 の「上のような旅行はどれもしていない」「無回答」以外）は64%である。旅行の内訳は「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が35%で最も多く、以下「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（24%）、「自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」（18%）、「山登りなどアウトドア活動の旅行」（15%）が続く。

性別にみると、自然関連旅行経験率は男性、女性とも64%で変わらないが、旅行内容では「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」については女性（38%、26%）が男性（31%、22%）を上回る。一方、男性は、「山登りなどアウトドア活動の旅行」「キャンプなど野外生活を体験する旅行」（17%、10%）で女性（14%、5%）を上回る。

年齢別にみると、自然関連旅行経験率は60代（69%）で最も高く、40代（58%）で最も低くなっている。旅行内容では、20代で「山登りなどアウトドア活動の旅行」（20%）30代で「キャンプなど野外生活を体験する旅行」（15%）、60代で「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」（40%）、「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（32%）、「自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」（24%）が相対的に多くなっている。

また、職業別にみると、自然関連旅行経験率は自由業（69%）、団体職員（75%）、専業主婦（70%）で高く、農林漁業（59%）、その他（55%）で低くなっている。旅行内容では、団体職員、学生で「山登りなどアウトドア活動の旅行」（34%、31%）、自由業、公務員で「キャンプなど野外生活を体験する旅行」（17%、13%）が相対的に多い他は、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」「自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」が多い傾向はどの職業でも一致している。

【図表 4-17】 過去1年間の自然関連の旅行経験（全体）（複数回答）（%）



【図表 4-18】過去 1 年間の自然関連の旅行経験（性別、年齢別、職業別）（複数回答）

単位：%

	性別			年齢別							職業別										
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数 (N)	1267	586	652	118	177	212	287	288	163	68	89	29	36	280	60	32	26	134	239	198	42
自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行	34.7	30.5	37.9	28.8	29.9	29.7	35.2	39.9	37.4	29.4	34.8	20.7	27.8	31.8	36.7	40.6	23.1	32.8	43.1	35.4	26.2
自然に浸り、その美しさを愛でる旅行	24.2	22.0	26.4	23.7	22.6	17.5	25.1	31.6	20.9	22.1	30.3	10.3	22.2	19.3	23.3	15.6	23.1	25.4	31.4	22.7	28.6
自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行	17.5	17.1	18.3	12.7	14.1	15.6	16.4	24.0	19.0	16.2	22.5	24.1	19.4	13.9	16.7	9.4	19.2	11.9	23.4	19.7	14.3
山登りなどアウトドア活動の旅行	14.9	16.7	13.7	20.3	17.5	14.6	16.7	16.0	4.9	16.2	15.7	10.3	16.7	16.8	18.3	34.4	30.8	19.4	11.3	8.1	14.3
動植物の観察旅行	7.3	6.5	8.3	6.8	7.3	6.1	7.7	9.0	6.1	4.4	3.4	17.2	5.6	6.4	5.0	6.3	11.5	7.5	10.5	8.1	4.8
キャンプなど野外生活を体験する旅行	7.3	9.9	5.2	13.6	14.7	13.2	5.2	1.7	1.2	5.9	11.2	17.2	2.8	11.4	13.3	12.5	11.5	6.0	4.2	2.0	4.8
自然の成り立ち、動植物の生態を理解を深める旅行	5.9	5.5	6.3	5.1	6.2	4.2	5.6	7.6	5.5	8.8	4.5	3.4	5.6	4.3	6.7	3.1	11.5	6.7	7.1	6.1	4.8
上のような旅行はどれもしていない	30.7	30.9	30.8	34.7	35.6	40.1	28.6	23.3	27.6	35.3	28.1	27.6	25.0	36.1	25.0	15.6	34.6	31.3	27.6	31.8	33.3
無回答	5.2	5.1	4.9	2.5	2.3	1.9	5.6	7.3	9.8	5.9	7.9	3.4	11.1	2.1	6.7	9.4	-	4.5	2.5	7.6	11.9

地域別にみると、自然関連旅行経験率は関東（68%）、北陸（69%）で高く、九州（59%）でやや低い。旅行内容は北陸で「自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」「山登りなどアウトドア活動の旅行」（各 23%）、東海で「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（30%）が比較的多い。

都市規模別では、自然関連旅行経験率は 10 万人以上の都市（69%）で高く、町村（54%）で低い。旅行内容は、都市規模別では、都市規模が大きくなるに従い「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が多くなる傾向がみられ、政令指定都市では 40% に達する。

【図表 4-19】過去 1 年間の自然関連の旅行経験（地域別、都市規模別）（複数回答）

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,267	165	397	48	194	176	129	142	264	466	249	272
自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行	34.7	35.2	39.3	31.3	34.5	31.8	27.9	33.8	39.8	36.5	34.5	27.6
自然に浸り、その美しさを愛でる旅行	24.2	21.2	23.9	27.1	29.9	23.3	21.7	23.9	22.3	27.9	24.9	19.5
自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行	17.5	13.9	19.1	22.9	18.6	18.8	17.1	11.3	16.7	18.7	20.1	13.2
山登りなどアウトドア活動の旅行	14.9	15.8	15.1	22.9	14.4	14.8	18.6	9.2	14.4	17.6	13.3	12.9
動植物の観察旅行	7.3	6.1	10.1	8.3	8.2	5.1	4.7	5.6	9.5	7.5	7.2	5.5
キャンプなど野外生活を体験する旅行	7.3	9.7	7.8	10.4	4.6	6.3	5.4	7.7	8.3	6.9	7.2	6.6
自然の成り立ち、動植物の生態に理解を深める旅行	5.9	4.2	6.3	6.3	8.2	4.0	7.8	4.2	3.8	7.5	5.2	5.9
上のような旅行はどれもしていない	30.7	31.5	28.7	25.0	31.4	33.0	32.6	33.1	32.2	26.4	28.1	39.7
無回答	5.2	6.1	3.8	6.3	6.2	5.1	4.7	7.7	4.2	4.9	6.4	5.9

4-3-5 自然関連の旅行日数

過去1年間に自然関連の旅行をした人の旅行日数は「3～5日」が30%で最も多い。年齢別では30代「3～5日」(43%)、職業別では自由業で「1～2日」(40%)、会社員で「3～5日」(40%)の旅行が多い。

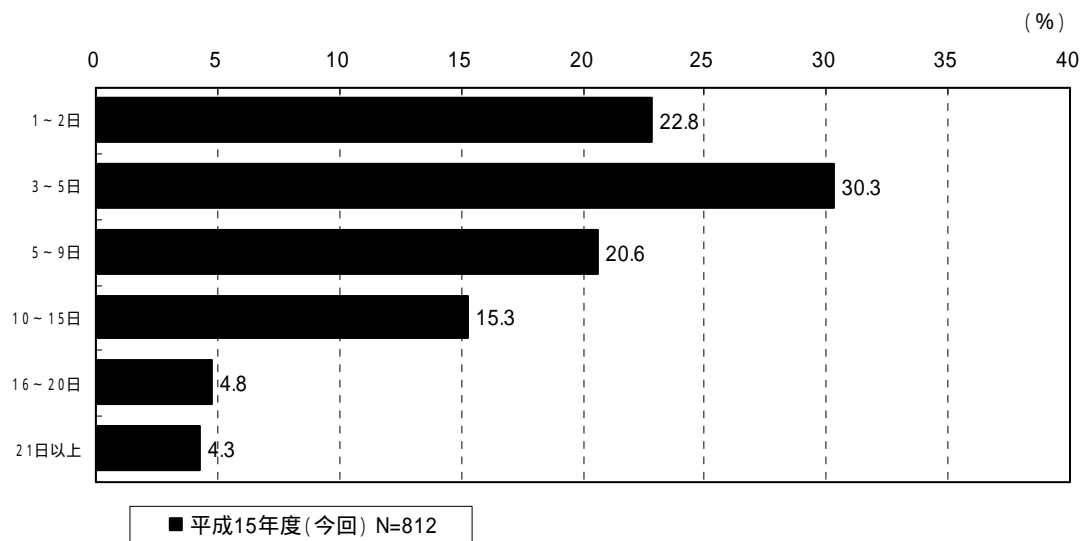
過去1年間に自然関連の旅行をした人の旅行日数は、「3～5日」が30%で最も多く、「1～2日」(23%)、「5～9日」(21%)、「10～15日」(15%)がそれに続く。

性別にみると、男性は「3～5日」(33%)、女性は「5～9日」(24%)の旅行が最も多い。

年齢別では、20代は「3～5日」「5～9日」(各27%)、30代、40代、50代および70代以上は「3～5日」(43%、35%、32%、32%)、60代は「5～9日」(24%)の旅行が最も多いが、相対的には、30代が「3～5日」(43%)、40代が「1～2日」(29%)、60代が「10～15日」(22%)の旅行が多いことが特徴である。

職業別では、自由業、団体職員で「1～2日」(40%、29%)、会社員、公務員で「3～5日」(40%、37%)、学生で「5～9日」(29%)の旅行が多い。

【図表 4-20】自然関連の旅行日数（全体）



【図表 4-21】自然関連の旅行日数（性別、年齢別、職業別）

単位：%

	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	812	375	419	74	110	123	189	200	102	40	57	20	23	173	41	24	17	86	167	120	23
1～2日	22.8	24.3	20.5	21.6	20.0	29.3	22.8	17.5	25.5	27.5	24.6	40.0	21.7	22.5	17.1	29.2	11.8	22.1	20.4	21.7	26.1
3～5日	30.3	33.3	27.7	27.0	42.7	35.0	32.3	20.0	31.4	32.5	22.8	25.0	26.1	39.9	36.6	29.2	23.5	30.2	24.6	29.2	13.0
5～9日	20.6	17.1	24.3	27.0	22.7	16.3	16.9	24.0	20.6	10.0	17.5	15.0	17.4	17.9	24.4	16.7	29.4	20.9	25.1	24.2	21.7
10～15日	15.3	13.9	16.5	16.2	10.0	11.4	14.3	21.5	13.7	17.5	15.8	15.0	17.4	10.4	17.1	12.5	17.6	17.4	16.2	16.7	21.7
16～20日	4.8	4.3	5.5	4.1	1.8	4.1	6.3	7.5	2.0	2.5	8.8	-	8.7	4.0	4.9	8.3	5.9	2.3	6.0	4.2	8.7
21日以上	4.3	5.1	3.6	2.7	2.7	2.4	5.8	8.0	-	5.0	7.0	5.0	4.3	4.6	-	4.2	5.9	4.7	6.0	1.7	4.3
無回答	2.0	2.1	1.9	1.4	-	1.6	1.6	1.5	6.9	5.0	3.5	-	4.3	0.6	-	-	5.9	2.3	1.8	2.5	4.3
平均(日)	6.8	7.1	6.5	7.7	7.6	6.7	6.7	6.6	6.0	6.1	6.6	6.9	7.2	7.5	6.4	9.6	7.2	6.0	6.4	6.4	6.5

地域別では、どの地域も「3～5日」の旅行が最も多いことは共通しているが、相対的にみて、中国・四国、九州は「1～2日」(28%、30%)、東海は「10～15日」「16～20日」(20%、10%)の旅行が多い。

都市規模別では政令指定都市で「5～9日」(27%)の旅行が最も多く、10万人以上、10万人未満の市部で「3～5日」(31%、35%)、町村で「1～2日」「3～5日」(各30%)の旅行が多くなっており、政令指定都市は他より旅行日数が多いことがうかがえる。

【図表 4-22】自然関連の旅行日数（地域別、都市規模別）

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	812	103	268	33	121	109	81	84	168	320	163	148
1～2日	22.8	23.3	17.9	24.2	21.5	25.7	28.4	29.8	18.5	23.1	19.6	30.4
3～5日	30.3	35.0	28.0	39.4	29.8	25.7	34.6	33.3	25.0	31.3	35.0	30.4
5～9日	20.6	21.4	23.9	12.1	16.5	22.9	13.6	19.0	26.8	16.9	21.5	18.9
10～15日	15.3	8.7	17.9	12.1	19.8	14.7	12.3	13.1	15.5	17.5	15.3	10.1
16～20日	4.8	1.0	4.5	3.0	9.9	5.5	4.9	3.6	4.2	6.6	2.5	4.7
21日以上	4.3	8.7	6.0	6.1	1.7	3.7	2.5	-	7.1	4.4	4.3	1.4
無回答	2.0	1.9	1.9	3.0	0.8	1.8	3.7	1.2	3.0	0.3	1.8	4.1
平均(日)	6.8	6.9	6.9	7.2	6.2	7.9	5.7	6.6	7.3	6.9	6.2	6.6

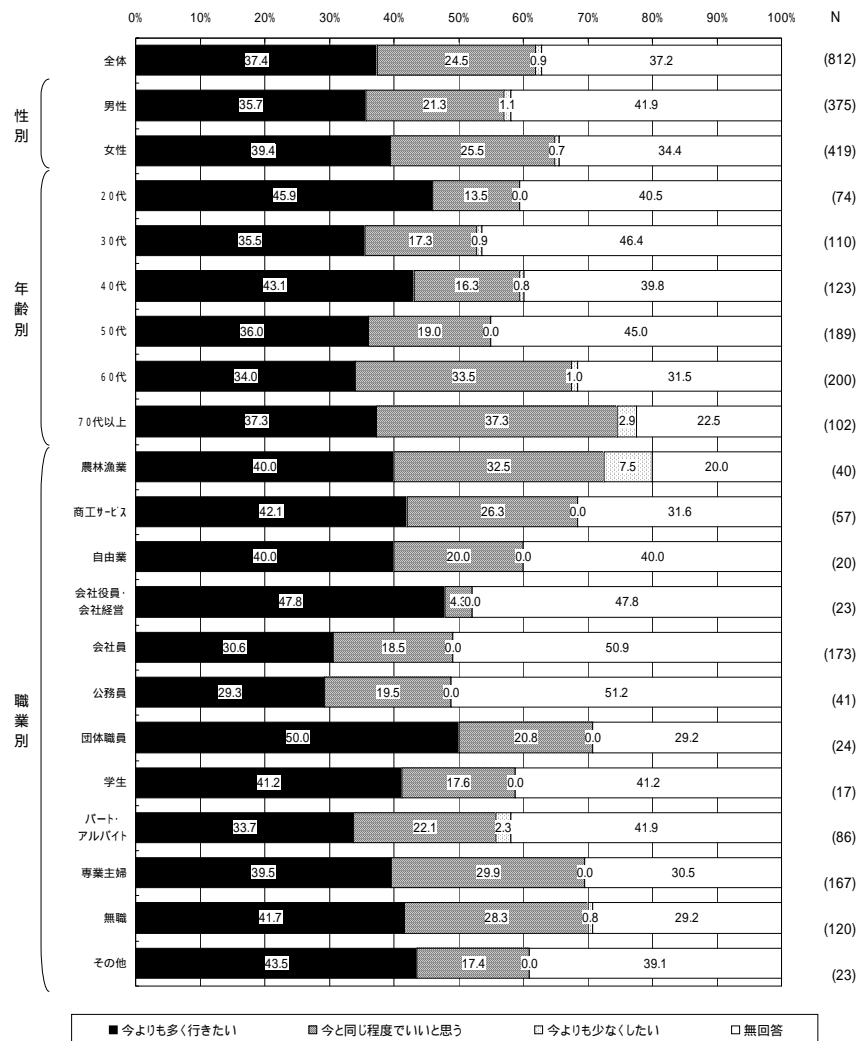
4-3-6 今後の自然関連の旅行の意向

今後の自然関連の旅行意向はきわめて強く、「今よりも多く行きたい」が37%で、「今と同じ程度でいいと思う」(25%)、「今よりも少なくしたい」(1%)を大きく上回る。特に強い意向を示しているのは、20代・40代、会社役員・会社経営、団体職員である。

今後の自然関連の旅行意向は、「今よりも多く行きたい」が37%で「今と同じ程度でいいと思う」(25%)、「今よりも少なくしたい」(1%)を大きく上回っており、その意向はきわめて強いとみることができる。

「今よりも多く行きたい」は男性36%、女性39%で、女性の方がやや強い意向を示している。年齢別では、20代・40代の意向が強く、この両年代の「今よりも多く行きたい」は46%、43%と高い。職業別では、会社役員・会社経営、団体職員で「今よりも多く行きたい」の比率が48%、50%と高い。

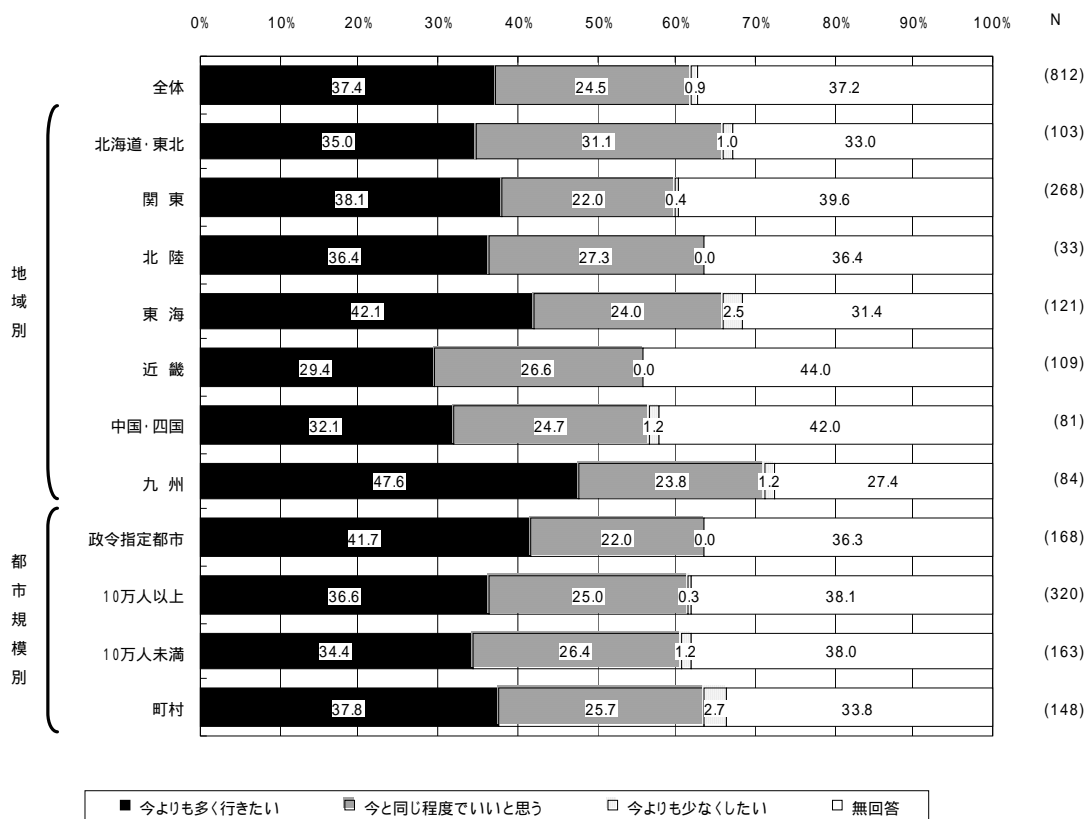
【図表 4-23】 今後の自然関連の旅行意向（性別、年齢別、職業別）



地域別では、九州で「今よりも多く行きたい」の比率が 48%と高い。これに比べると、近畿、中国・四国の「今よりも多く行きたい」の比率は低く、29%、32%にとどまっている。

都市規模別にみると、「今よりも多く行きたい」の比率は、政令指定都市が 42%と最も高く、10万人未満の都市が 34%で最も低い。

【図表 4-24】今後の自然関連の旅行意向（地域別、都市規模別）



4-3-7 居住地域の観光資源について

居住地域にある観光資源としてあげられたものは、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(51%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(45%)、「郷土料理、農産物、魚介類、畜産品、果汁、地酒などの食べ物」(40%)が上位を占める。

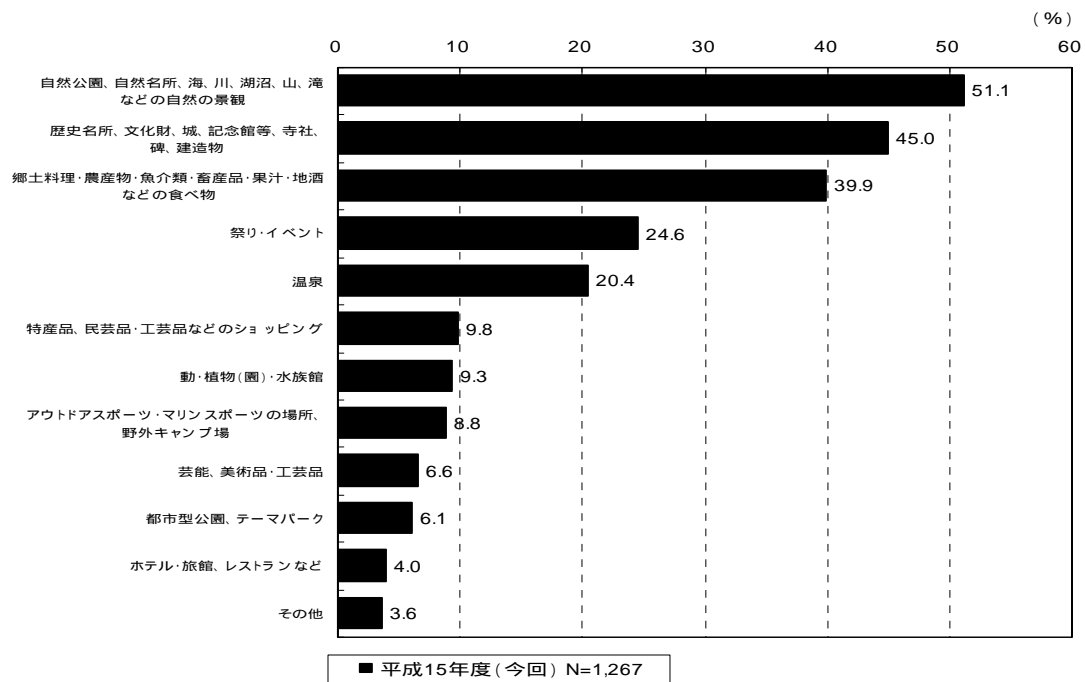
現在の居住地域に他の地域から旅行などで人が訪れる場合、その人たちに見て欲しい、あるいは楽しんで欲しいと思うもの、つまり、居住者からみた観光資源は、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」が最も多く51%にのぼっている。これに次ぐのは「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(45%)、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(40%)、「祭り・イベント」(25%)、「温泉」(20%)である。

性別にみると、女性は男性よりも「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」「郷土料理、農産物、魚介類、畜産品、果汁、地酒などの食べ物」をあげる比率が高い(54%、42%)。

年齢別にみると、30代、40代で「祭り・イベント」(33%、32%)、50代で「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(56%、51%)、60代で「特産品、民芸品、工芸品などのショッピング」(15%)、30代で「都市型公園、テーマパーク」(12%)をあげる比率が相対的に高くなっている。

職業別では、会社役員・会社経営、公務員、パート・アルバイト、専業主婦で「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(57~59%)、商工サービス、自由業、会社役員・会社経営、学生、専業主婦で「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(50~62%)、農林漁業、自由業、公務員、団体職員、学生で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(48~56%)、学生で「祭り・イベント」(39%)、会社役員・会社経営、団体職員で「温泉」(33%、34%)、学生、専業主婦で「動・植物(園)・水族館」(各15%)が、相対的に多くなっている。

【図表 4-25】居住地の観光資源（全体）（複数回答）



【図表 4-26】居住地域の観光資源（性別、年齢別、職業別）

単位：%

	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,267	586	652	118	177	212	287	288	163	68	89	29	36	280	60	32	26	134	239	198	42
自然公園、自然名所、海、川、湖沼、山、滝などの自然の景観	51.1	48.5	54.4	47.5	55.4	51.4	56.1	51.0	44.2	50.0	43.8	37.9	58.3	51.1	58.3	50.0	50.0	59.0	56.5	45.5	52.4
歴史名所、文化財、城、記念館等、寺社、碑、建造物	45.0	45.6	45.4	42.4	37.3	43.9	51.2	47.6	43.6	26.5	50.6	62.1	50.0	40.7	41.7	34.4	57.7	47.8	53.1	45.5	40.5
郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物	39.9	37.7	41.9	44.1	44.1	42.9	38.7	38.9	33.1	50.0	40.4	48.3	36.1	37.9	48.3	56.3	53.8	38.1	41.8	30.3	42.9
祭り・イベント	24.6	24.4	25.8	26.3	33.3	31.6	22.6	20.1	19.0	14.7	29.2	34.5	13.9	25.7	26.7	25.0	38.5	25.4	29.3	18.2	21.4
温泉	20.4	18.1	22.7	24.6	19.8	25.0	16.7	19.4	21.5	19.1	16.9	17.2	33.3	18.9	15.0	34.4	15.4	21.6	22.6	19.7	23.8
特産品、民芸品・工芸品などのショッピング	9.8	9.2	10.1	6.8	7.9	5.7	9.1	15.3	10.4	14.7	13.5	6.9	11.1	8.2	10.0	9.4	7.7	7.5	9.2	10.6	11.9
動・植物(園)・水族館	9.3	8.0	10.3	4.2	13.6	5.7	10.5	11.1	7.4	4.4	6.7	10.3	2.8	8.2	1.7	12.5	15.4	9.0	15.1	7.6	14.3
アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場	8.8	8.9	9.0	6.8	11.9	10.8	7.3	10.4	4.9	14.7	10.1	10.3	11.1	8.2	11.7	9.4	3.8	9.7	10.0	5.1	7.1
芸能、美術品・工芸品	6.6	6.0	7.2	6.8	5.1	5.2	6.3	9.7	4.9	4.4	7.9	10.3	11.1	3.6	3.3	-	11.5	9.7	7.5	7.1	9.5
都市型公園、テーマパーク	6.1	5.6	6.6	8.5	12.4	4.2	5.2	4.2	4.9	-	3.4	13.8	2.8	8.2	3.3	3.1	7.7	5.2	7.5	5.6	7.1
ホテル・旅館、レストランなど	4.0	3.6	4.1	4.2	4.5	2.8	3.5	4.2	4.9	7.4	6.7	-	2.8	3.2	-	3.1	3.8	1.5	5.9	3.5	7.1
その他	3.6	4.6	2.6	5.1	3.4	2.8	1.7	4.5	4.9	2.9	5.6	-	5.6	4.3	1.7	3.1	3.8	3.7	2.1	4.5	2.4
無回答	8.7	9.2	7.1	5.1	2.8	5.2	6.6	11.1	18.4	16.2	6.7	13.8	5.6	6.4	5.0	6.3	-	6.0	5.9	14.1	9.5

地域別にみると、関東や近畿では、全要素を通じて環境資源をあげる比率は比較的小さい。北陸、中国・四国で「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(63%、62%)、北陸で「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(58%)、北海道・東北、北陸、中国・四国、九州で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(50~69%)、中国・四国で「祭り・イベント」(36%)、北海道・東北で「温泉」(44%)をあげる割合が高く、地域性が表れているといえる。

都市規模別では、政令指定都市で最も高いのは「歴史名所、文化財、城、記念館等、寺社、碑、建造物」(49%)となっており、次いで「自然公園、自然名所、海・海岸、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然景観」(33%)となっている。一方、10万人以上、10万人未満の都市の最も高い項目は「自然公園、自然名所、海、川、湖沼、山、滝などの自然景観」(57%、52%)となっており、次いで「歴史名所、文化財、城、記念館等、寺社、碑、建造物」(50%、51%)である。町村については「自然公園、自然名所、海・海岸、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然景観」(57%)、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(53%)となっている。

【図表 4-27】居住地域の観光資源（地域別、都市規模別）（複数回答）

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,267	165	397	48	194	176	129	142	264	466	249	272
自然公園、自然名所、海、川、湖沼、山、滝などの自然の景観	51.1	58.8	41.3	62.5	55.2	46.6	62.0	56.3	33.3	57.1	52.2	57.4
歴史名所、文化財、城、記念館等、寺社、碑、建造物	45.0	35.2	45.6	58.3	44.3	48.3	50.4	41.5	49.2	50.2	51.0	26.1
郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物	39.9	58.2	21.9	68.8	42.8	30.7	50.4	57.7	23.9	39.1	44.2	53.3
祭り・イベント	24.6	30.3	23.7	27.1	19.1	21.0	36.4	23.2	24.6	27.0	27.7	18.8
温泉	20.4	43.6	10.3	31.3	23.7	11.4	26.4	19.7	9.5	26.8	18.5	22.1
特産品、民芸品・工芸品などのショッピング	9.8	19.4	5.8	2.1	11.9	5.7	14.7	9.9	7.2	9.7	12.0	10.3
動・植物(園)・水族館	9.3	4.8	10.6	2.1	13.9	9.1	4.7	12.7	16.3	12.4	5.2	1.5
アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場	8.8	9.7	4.8	6.3	9.8	13.6	8.5	13.4	6.1	6.9	12.0	12.1
芸能、美術品・工芸品	6.6	7.9	4.3	16.7	5.7	7.4	8.5	7.7	9.8	7.1	6.0	3.7
都市型公園、テーマパーク	6.1	1.8	8.3	-	2.1	8.5	5.4	9.2	17.0	4.7	3.2	-
ホテル・旅館、レストランなど	4.0	4.8	4.3	4.2	5.7	1.7	3.1	3.5	6.4	3.2	3.2	3.7
その他	3.6	3.0	5.5	-	3.1	4.0	1.6	1.4	6.1	2.6	3.6	2.6
無回答	8.7	9.1	11.6	2.1	9.8	6.8	3.1	7.0	11.4	6.0	9.6	9.2

4 - 4 住宅に関する環境保全行動

4-4-1 太陽熱温水器、太陽光発電の利用状況

太陽熱温水器、太陽光発電の現在の利用率は低く、また、これに将来における利用を希望する人を合わせても3割弱にとどまる。また、前回の調査と比較して、太陽熱温水器、太陽光発電を否定的に考えている人が増えているものと判断される。

(1) 太陽熱温水器

太陽熱温水器の利用状況については、現在「利用している」人は9%に過ぎない。また、これに「利用していないが、将来は利用したい」(20%)を加えても3割弱にとどまる。

前回の調査と比較すると、「利用していないし、将来も利用する予定はない」が6ポイント増加したため、「利用している」が2ポイント、「利用していないが、将来は利用したい」が2ポイント減少した。

性別による差はほとんどない。

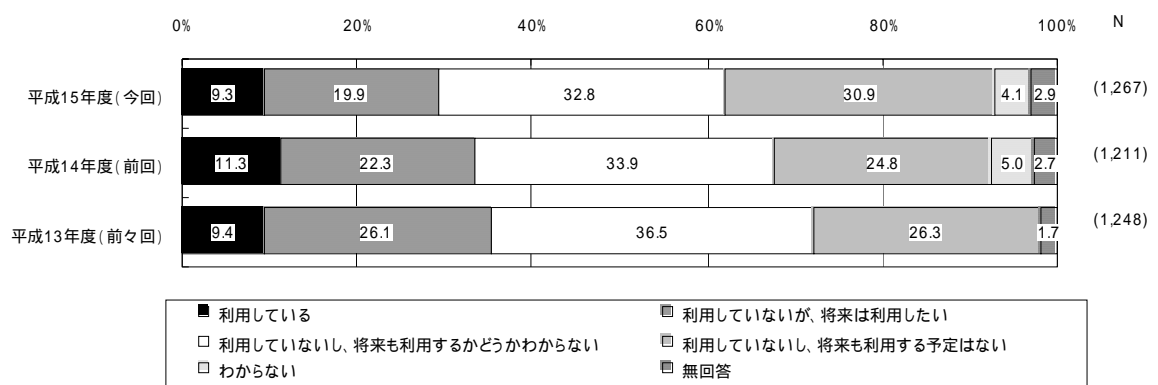
年齢別にみると、「利用していないが、将来は利用したい」は30代(25%)、「利用していないし、将来も利用する予定はない」は60代(37%)でやや多くなっている。

職業別にみると、「利用している」は農林漁業(16%)で高い。また、「利用していないが、将来は利用したい」が自由業、会社役員・会社経営(31%、28%)、「利用していないし、将来も利用するかどうかわからない」が公務員(45%)、「利用していないし、将来も利用する予定はない」が無職(37%)でそれぞれ高い。

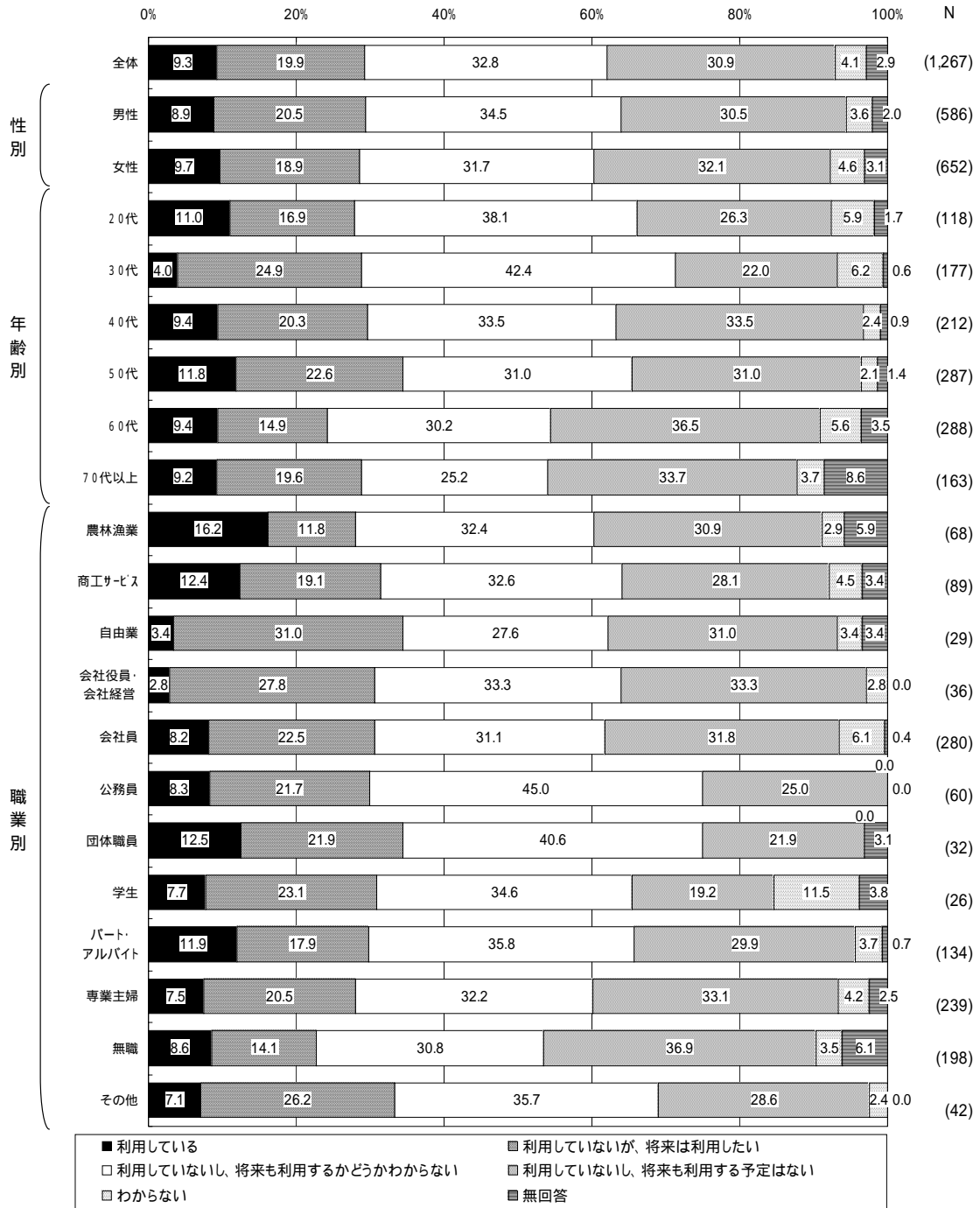
地域別にみると、「利用している」は北海道・東北が2%にとどまるのに対し、中国・四国は27%と普及している。また、「利用していないが、将来は利用したい」は九州が25%で最も高い。

都市規模別にみると、政令指定都市での利用率は3%、町村では16%と、都市規模が小さいほど普及している傾向にある。

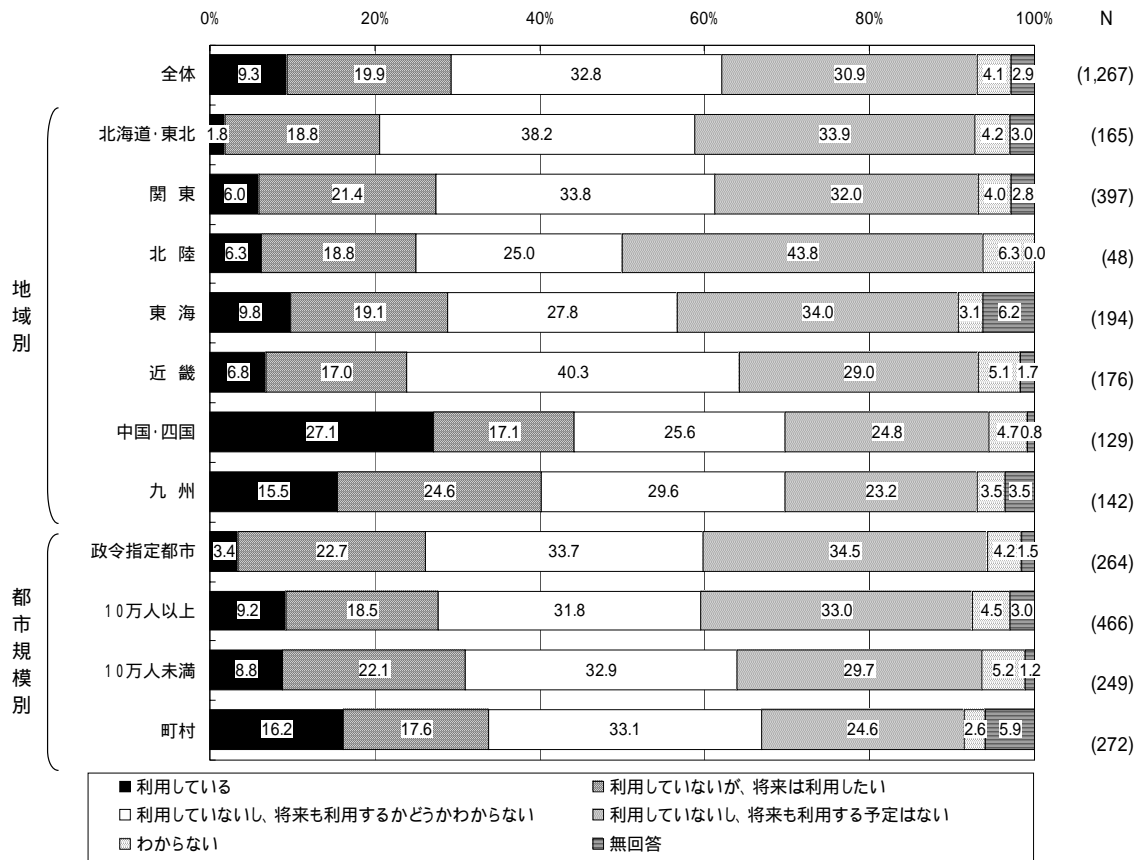
【図表 4-28】太陽熱温水器の利用状況（全体、時系列）



【図表 4-29】太陽熱温水器の利用状況（性別、年齢別、職業別）



【図表 4-30】太陽熱温水器の利用状況（地域別、都市規模別）



(2) 太陽光発電

太陽光発電を、現在「利用している」は2%である。また、これに「利用していないが、将来は利用したい」(25%)を加えても3割弱にとどまる。

前回の調査と比較すると、「利用している」は横這いで、「利用していないが、将来は利用したい」は微減。また、「利用していないし、将来も利用する予定はない」(28%)が5ポイント増加していることから、太陽光発電を否定的に考えている人が増えているものと判断される。

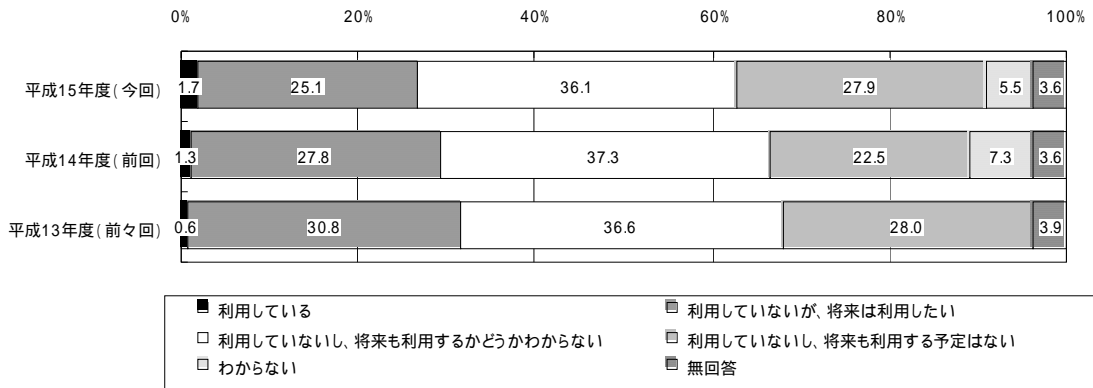
性別にみると、「利用していないが、将来は利用したい」は男性の方がやや多い。

年齢別にみると、「利用している」は年代に関わらず少ない。また、「利用していないが、将来は利用したい」は30代・40代・50代で29~31%とやや高い。

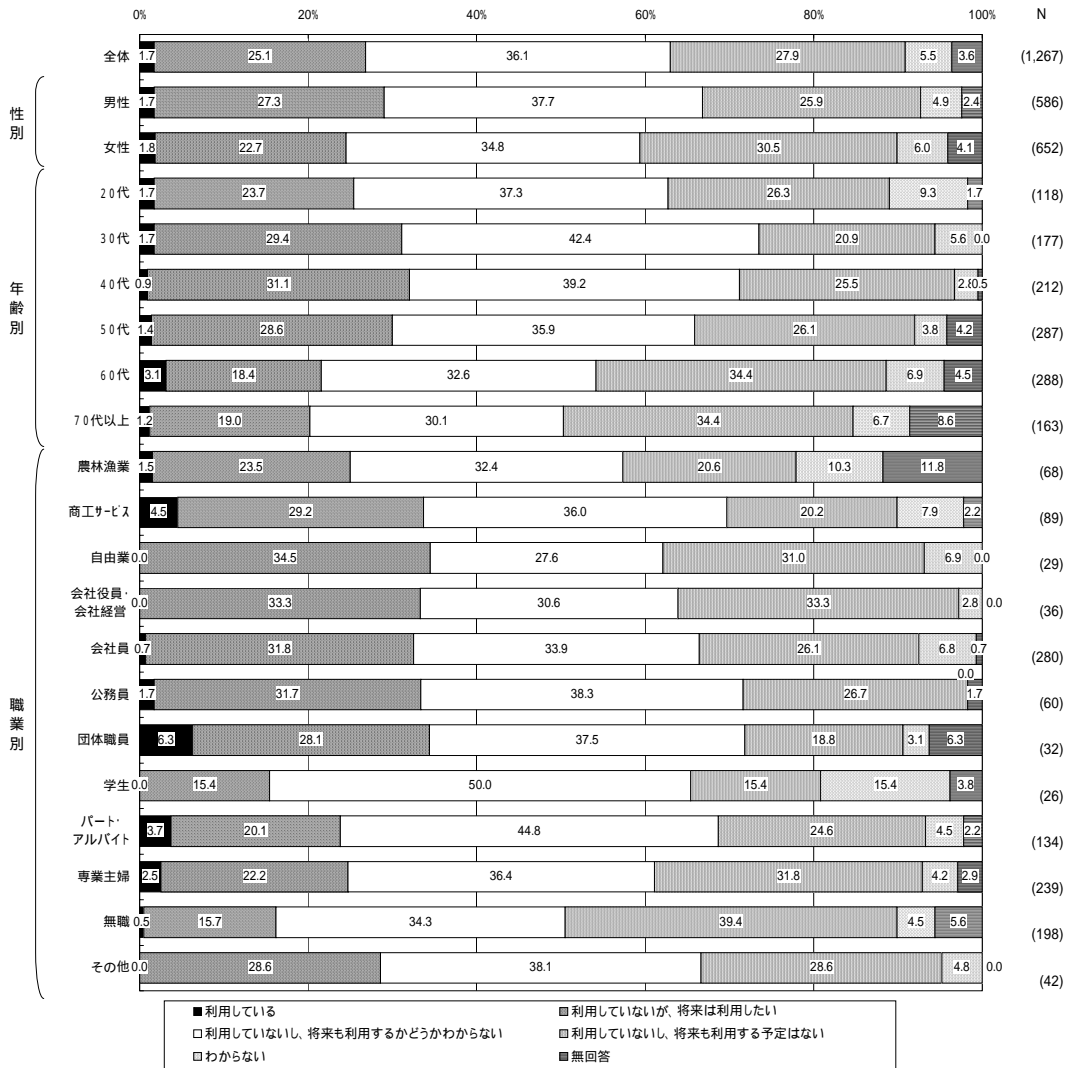
職業別にみると、「利用している」は商工サービスで5%、団体職員で6%を示す。また、「利用していないが、将来は利用したい」が自由業、会社役員・会社経営、会社員、公務員(32~35%)、「利用していないし、将来も利用するかどうかわからない」がパート・アルバイト、学生(45%、50%)で高い。「利用していないし、将来も利用する予定はない」は、会社役員・会社経営、無職(33%、39%)で高い。

地域別には、北陸で「利用していないし、将来も利用する予定はない」が40%と高い。都市規模別には、大都市ほど「利用していないし、将来も利用する予定はない」が増加する傾向がある。

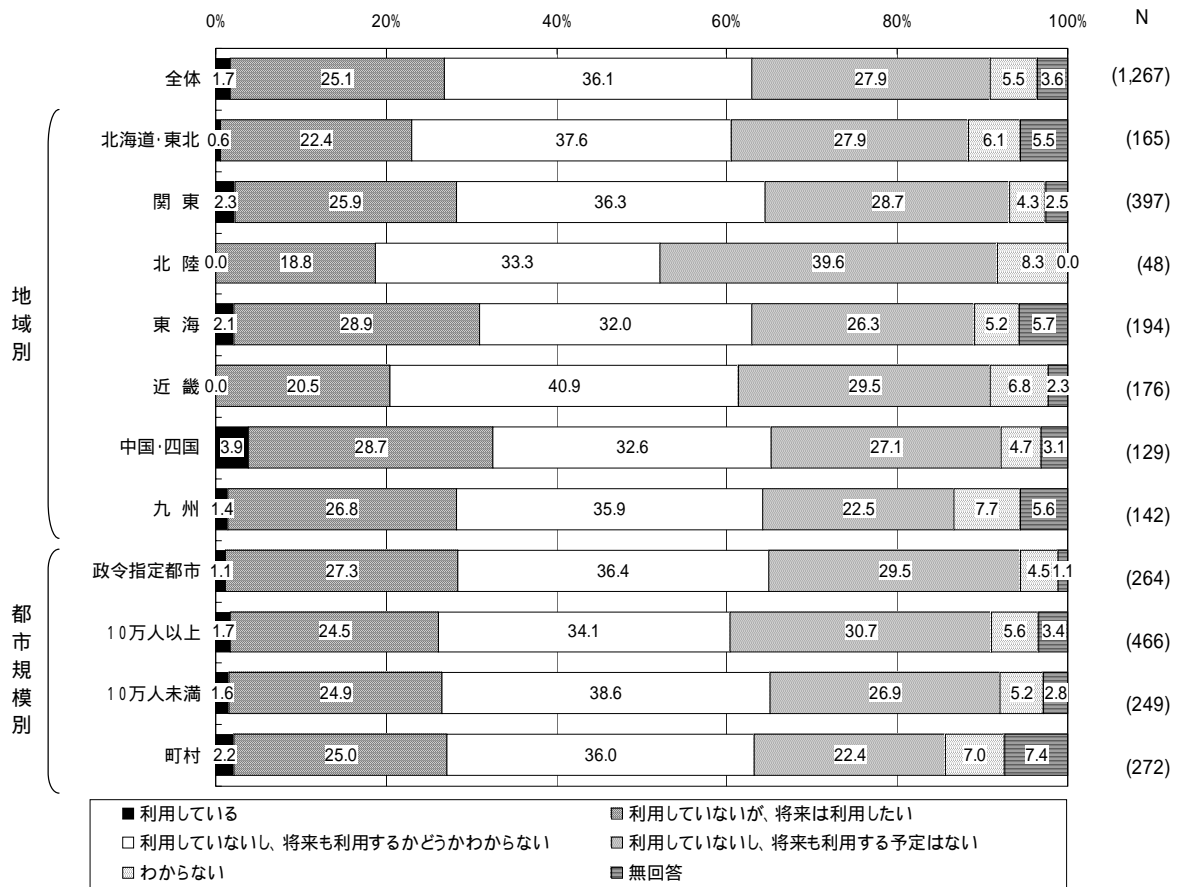
【図表 4-31】太陽光発電の利用状況（全体、時系列）



【図表 4-32】太陽光発電の利用状況（性別、年齢別、職業別）



【図表 4-33】太陽光発電の利用状況（地域別、都市規模別）



4-4-2 住宅の新築や改築・改装の際の断熱

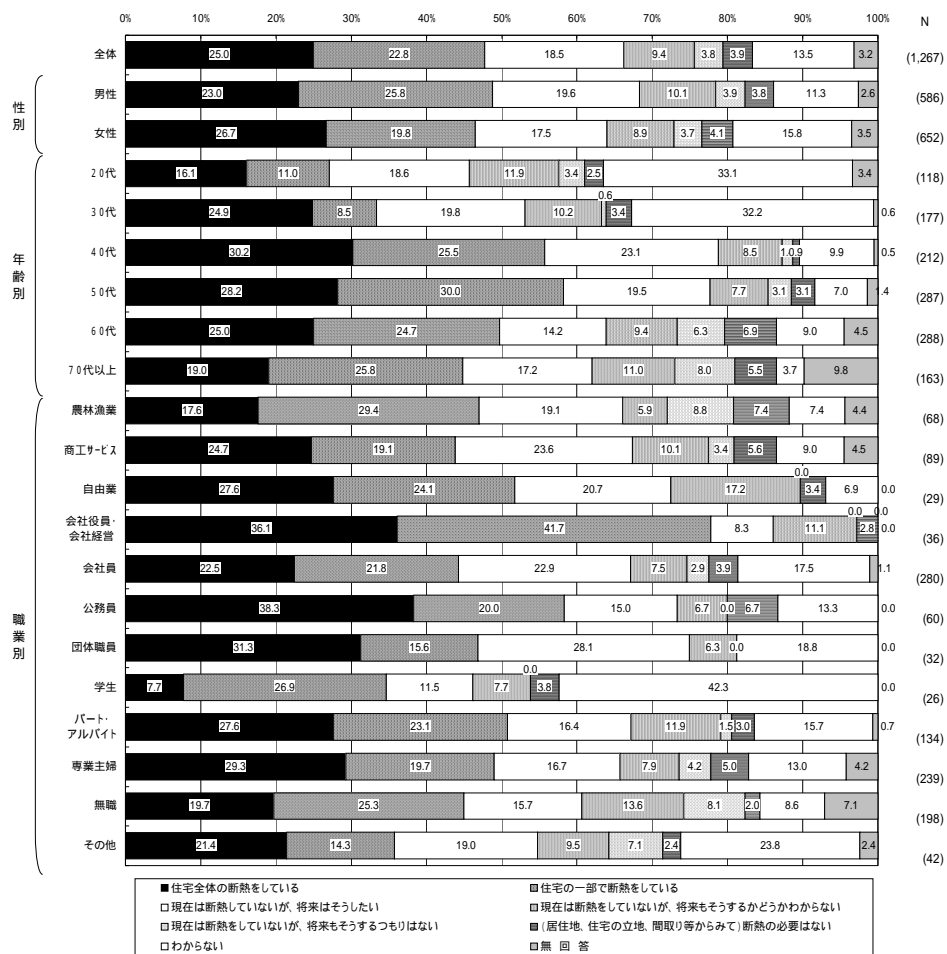
住宅の断熱については、「住宅全体の断熱をしている」(25%)、「住宅の一部で断熱している」(23%)を合わせて48%。また、「現在は断熱していないが、将来はそうしたい」という意向も19%を占めている。

新築や改築・改装の際に断熱をしてある住宅は、「住宅全体の断熱をしている」(25%)、「住宅の一部で断熱している」(23%)を合わせて48%である。また、これらに「現在は断熱していないが、将来はそうしたい」(19%)を含めると全体の66%にのぼる。

性別にみると差はあまりないが、年齢別にみると、40代・50代で「住宅の一部で断熱している」(26%、30%)がやや高い。

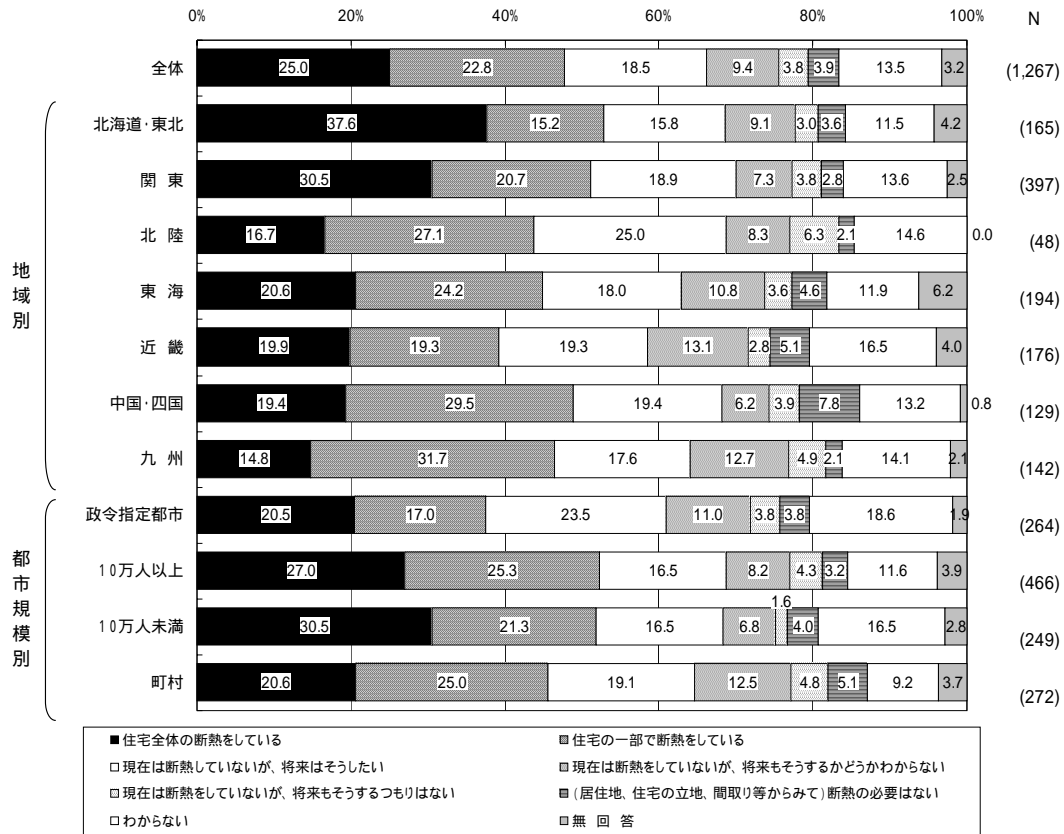
職業別では、会社役員・会社経営、公務員で「住宅全体の断熱をしている」(36%、38%)会社役員・会社経営で「住宅の一部で断熱している」(42%)、団体職員で「現在は断熱していないが、将来はそうしたい」(28%)がそれぞれ高い。

【図表 4-34】住宅の新築や改築・改装の際の断熱（性別、年齢別、職業別）



地域別では、北海道・東北で「住宅全体を断熱している」(38%)、九州で「住宅の一部で断熱している」(32%)が高い。また、都市規模別では、10万人未満の都市で「住宅全体の断熱をしている」(31%)がやや高くなっている。

【図表 4-35】住宅の新築や改築・改装の際の断熱（地域別、都市規模別）



4 - 5 自動車に関する環境保全行動

4-5-1 自動車運転時不要なアイドリング等をしないようにしているか

自動車運転時、排気ガスを過剰に排出しない配慮をしている人は85%。50代・60代は9割以上、会社役員・会社経営は9割近くにのぼる。

自動車を運転する際に不要なアイドリング等をしないことの実行率「いつも気をつけている」「だいたい気をつけている」の合計)は85%である。

性別にみると、男性・女性ともに85%、83%と実行率は高く、大きな差はない。

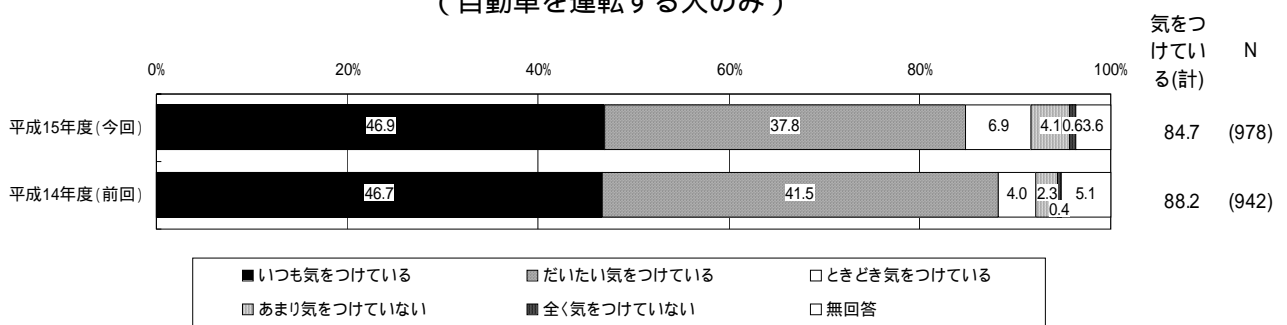
年齢別にみると、50代が93%と最も高く、これを境として年代が高くなるにつれ、また年代が若くなるにつれ、実行率が低くなる傾向にある。

職業別にみると、団体職員、学生の実行率が74%、65%と若干低い以外は、全て8割以上で高い。

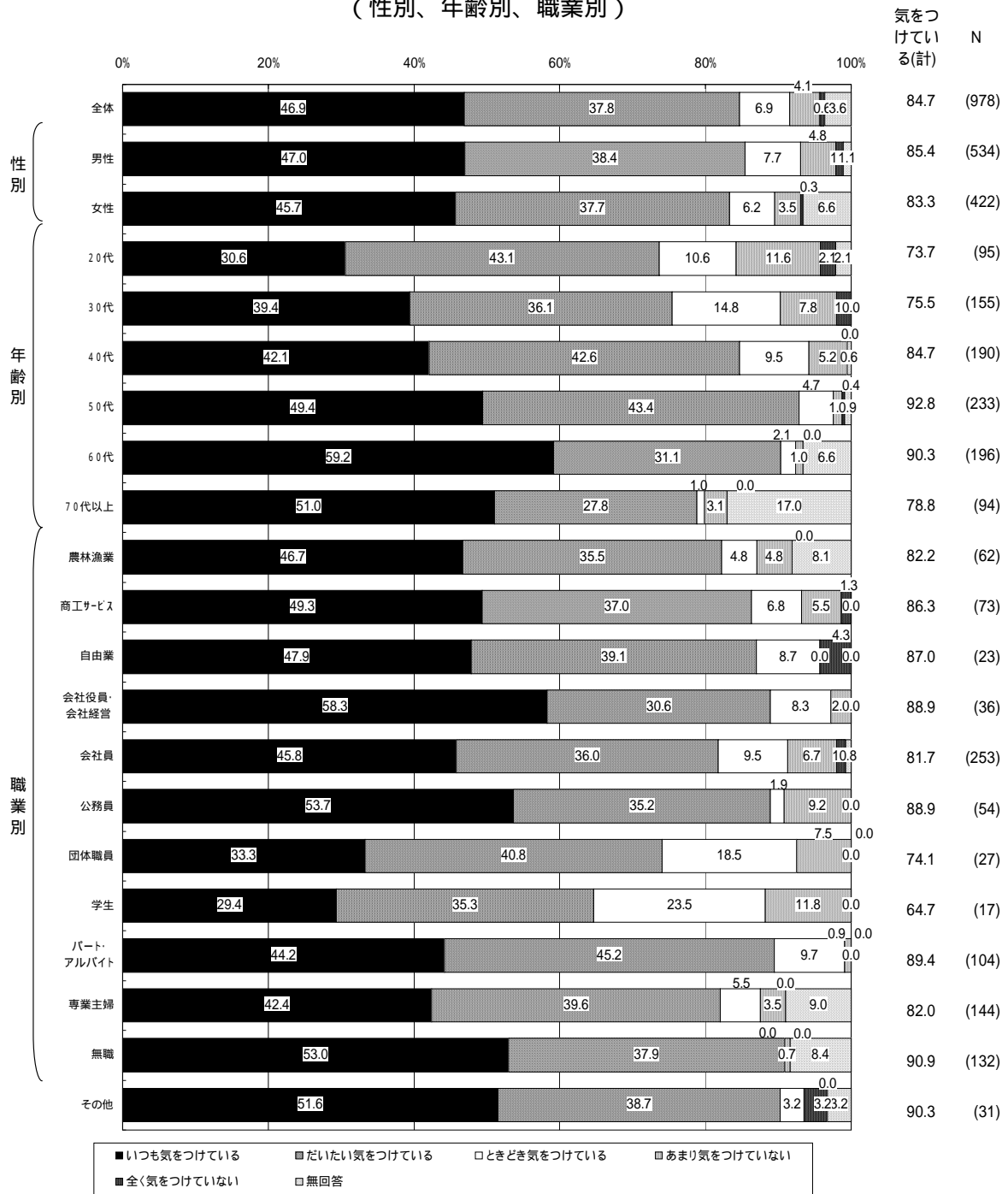
地域別にみると、中国・四国で79%と8割を下回っているが、他地域は8割を超えている。

都市規模別には大きな差はなく、実行率は8割を超え、高い。

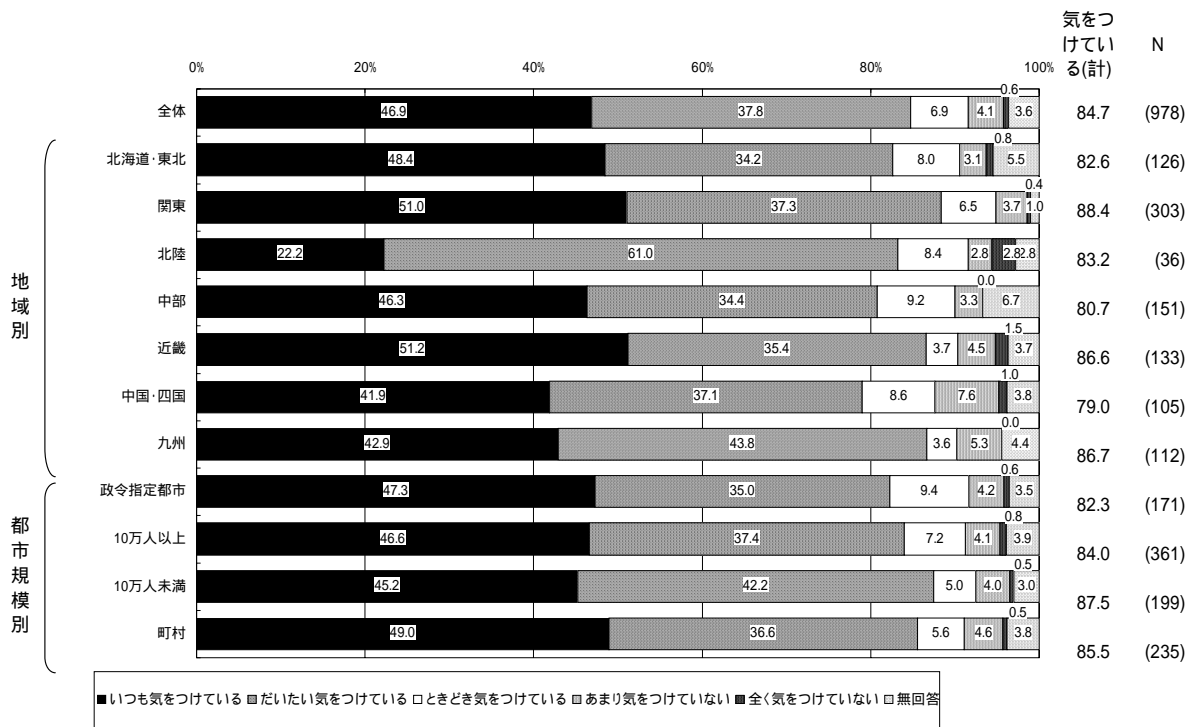
【図表 4-36】自動車運転時、不要なアイドリング等をしないようにしているか
(自動車運転する人のみ)



【図表 4-37】自動車運転時、不要なアイドリング等をしないようにしているか
(性別、年齢別、職業別)



【図表 4-38】自動車運転時、不要なアイドリング等をしないようにしているか
 (地域別、都市規模別)



4 - 5 - 2 低公害車の購入について

低公害車の所有率は前回の調査よりも3ポイント増の16%に伸び、購入を検討している人も3分の1弱を占める。

近年、『環境にやさしい自動車』として電気自動車、メタノール自動車、天然ガス自動車及びハイブリッド自動車などの「低公害車」や、ガソリン自動車やLPガス自動車等の排出ガス性能が改善された「低排出ガス車」が販売されるようになった。このような低公害車・低排出ガス車について尋ねたところ、「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」が16%、「自動車を購入の際には、そのような車を検討の対象に入れようと思っている」は31%であった。また、「興味はあるが、購入の検討対象にまでは至らない」が29%であり、『環境にやさしい自動車』に何らかの興味を抱いている人（購入済・購入検討・興味有り）は7割を超えている。

前回の調査と比べると「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」が3ポイント増加し、「自動車を購入の際には、そのような車を検討の対象に入れようと思っている」も引き続き高い比率を占めている。

性別にみると、「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」では、差はみられないが、「自動車を購入の際には、そのような車を検討の対象に入れようと思っている」は男性が36%で女性よりも多い。

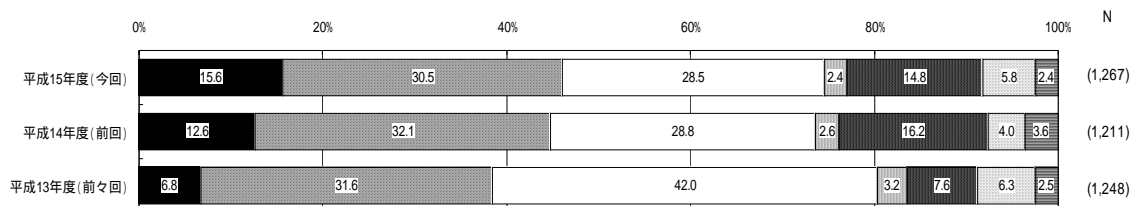
年齢別にみると、「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」は、若年層ほど多く、20代では25%、30代では24%を示している。また、「自動車を購入の際には、そのような車を検討の対象に入れようと思っている」は40代が35%で最も多く、これに60代（34%）が続く。

職業別にみると、「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」は、会社役員・会社経営で31%と特に高い。また、会社役員・会社経営、公務員では「自動車を購入の際には、そのような車を検討の対象に入れようと思っている」の比率が各42%高くなっている。

地域別にみると、「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」の比率は東海が21%で最も高く、「自動車を購入の際には、そのような車を検討の対象に入れようと思っている」は近畿が34%で最も高い。

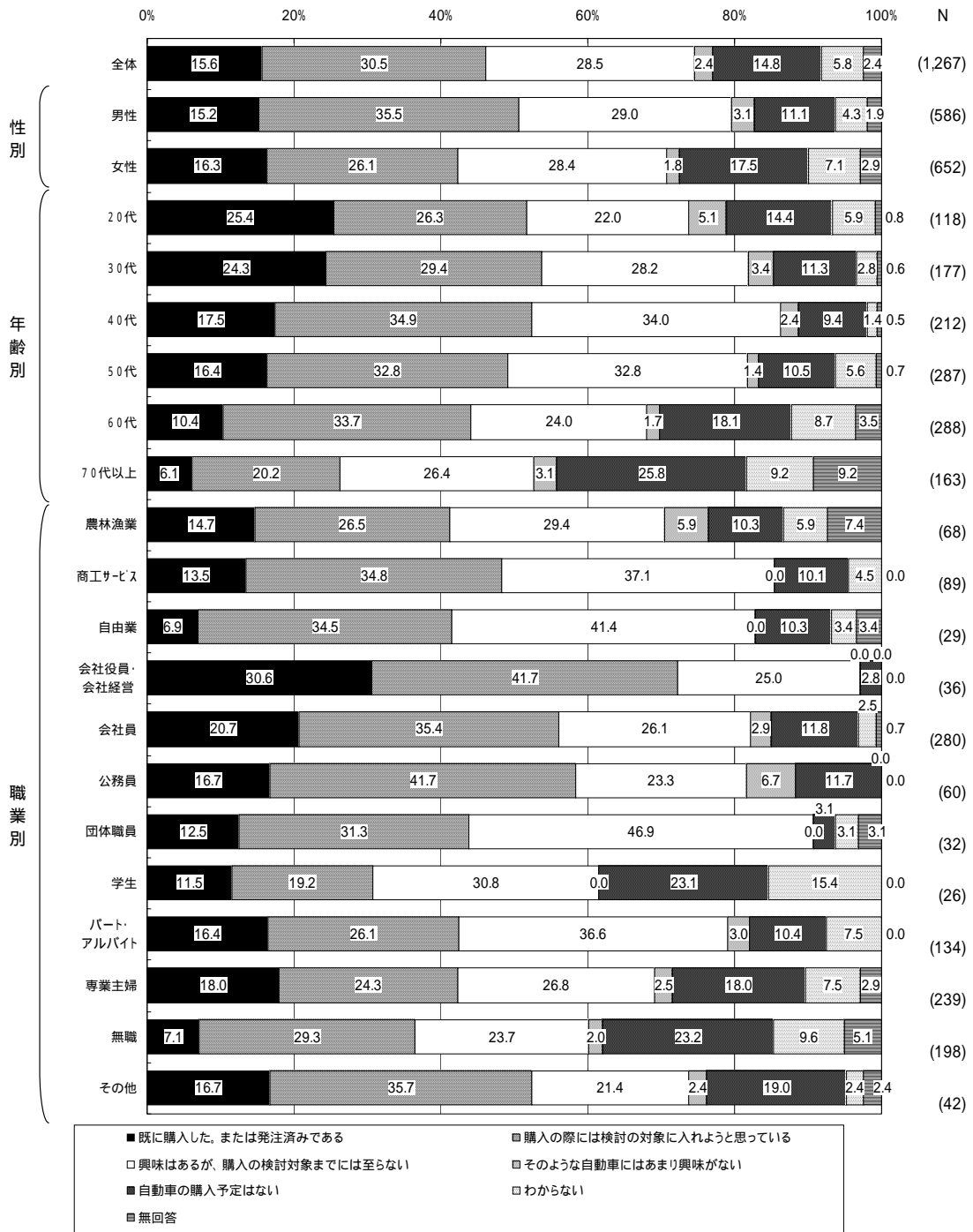
都市規模別にみると、「既にそのような自動車を購入した。または、発注済みである」の比率が10万人未満で19%とやや高い。

【図表 4-39】低公害車の購入検討の有無（全体、時系列）



- 既にそのような自動車を購入した。または発注済みである
- 興味はあるが、購入の検討対象にまでは至らない
- 自動車の購入予定はない
- 無回答
- 自動車を購入の際にはそのような車を検討の対象に入れようと思っている
- そのような自動車にはあまり興味がない
- わからない
- 13年は「車そのものに興味がない」

【図表 4-40】低公害車の購入検討の有無（性別、年齢別、職業別）



【図表 4-41】低公害車の購入検討の有無（地域別、都市規模別）

